

網野智世子の秘伝～英語が奇跡的に上達したある1つの秘密を公開します～

全部で111ページあります

ア ミ チ ヨ ヒ デ ン  
**網野智世子の秘伝**

なぜ、たった1つのポイントに集中することで  
あなたの成績が面白いようにのびるのか、  
その秘密とは・・・

多言語翻訳者・行政書士/ポリグロットアーティスト

**網野智世子**

Created by: Chiyoko AMINO, Administrative Attorney/Multilingual Translator

※ この本は、大事な奥義を書きましたので捨てないで下さい・・・

## 初めに・・・

私のこの本を、ダウンロードしてくれて、ありがとう・・・  
感謝しています。

この本は、普通の無料の冊子とは違って、長いです、深いです、  
もしかしたら、読むのが「めんどくさい」かもしれないです・・・(笑)  
でもね、落ち着いて聞いて・・・

この本には、英語の学者が「ウンウン」、「そうだそうだ」と納得するほど  
凄いことが書いてあります。

ウソじゃありません。

現在、私（網野智世子）は、10ヶ国語をマスターして、20カ国の勉強をしています。  
20ヶ国語をマスターしようと挑戦したことで、あるとんでもない秘密に気付いたのです。  
それを、あなたに0円でご紹介したいと思いました。

ご紹介しようと思ったのは、この秘密を多くの人に共有したいと思ったからです。

色々な方から、「本を実際にだせばいいじゃない」って言われるんですが、  
世の中そうカンタンに本を出せるものじゃないんですよ（笑）  
出版業界も不況ですしね・・・  
自費出版して本を出したとしても、この秘密を公開できるのは、ごくわずかの人だけです。

網野智世子の秘伝～英語が奇跡的に上達したある1つの秘密を公開します～

だから、この本をタダで配ることにしました。  
正直、作るのにすごい時間がかかりましたし、  
実際にこの本をお配りすることで、お金をいただいたこともあります。

しかし、出来る限り、私の秘密を知っていただいて、沢山の方に英語を使えるようになってもらいたい・・・

そう思ったので、この秘密を0円で公開する決意をしたのです。

この本に書いたノウハウを、自分自身のもので消化するために17年間かかりました。  
(現在を含めると20年以上になります)

本当、やっと、やっと！発見した秘密なのです。  
この本を馬鹿にせず、本を読むのが嫌いな人でも、読んでみて下さい。  
**絶対に捨てないで下さい。できれば印刷してください。**

絶対にあなたに損はさせません。  
約束いたします。

私に出会ってくれて、ありがとう。  
どうか、あなたの英語の力がグンッとUPするように・・・  
私のこの秘密が、あなたの人生を豊かにすることを願って・・・

多言語翻訳者・行政書士

網野智世子

# 網野智世子の秘伝

その結論とは・・・

(ここが4ページです)

英語を極める奥義とは、  
“動詞”を制することである。

これからその秘密を具体的に説明いたしましょう…

## ～PDF を効果的に読むためのパソコンの豆知識～

この本は、PDF という形式になっています  
その内容は、パソコンで見ることのできる電子書籍のことです。

この本は、キーボードの Ctrl+マウスのスクロールボタンを動かすことで、  
本が大きな文字で見れたり、小さな文字で見れます。

上手く活用してみてください

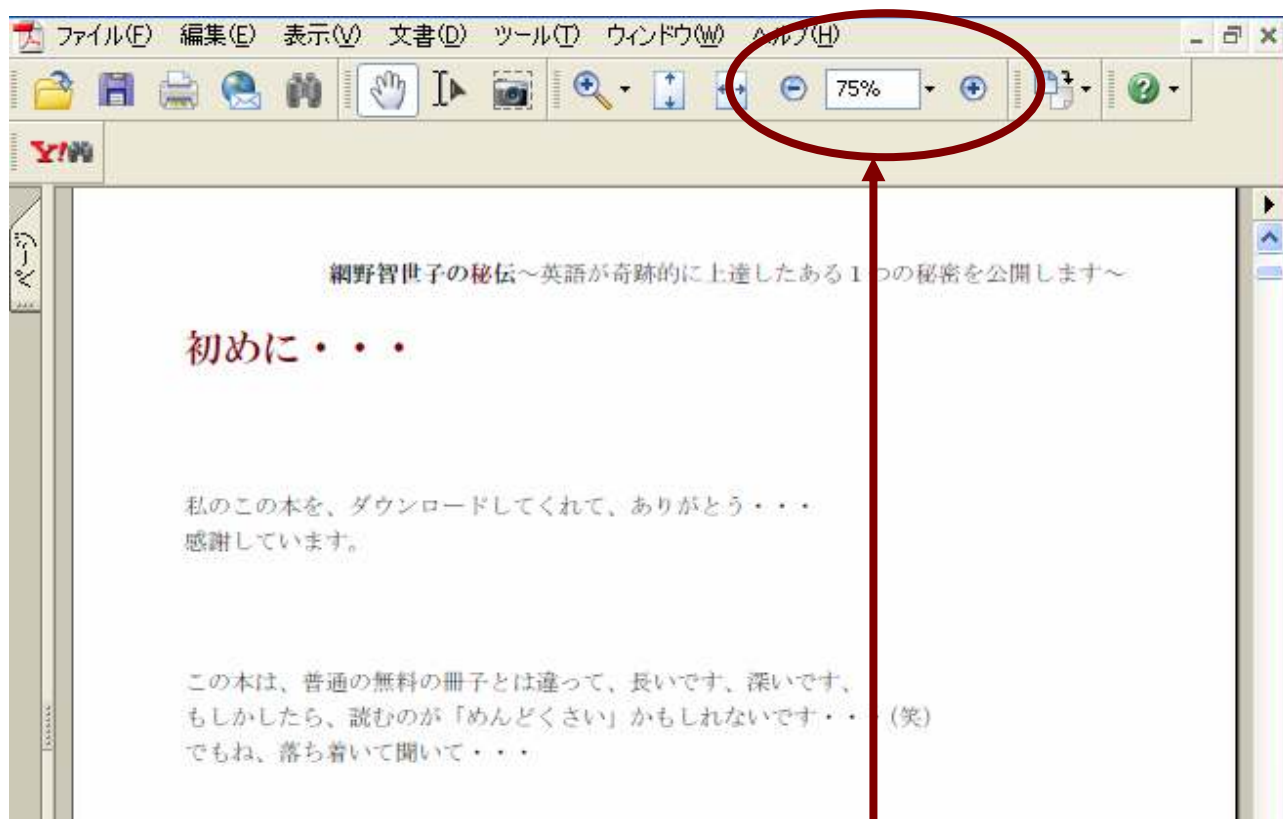


ここを Ctrl といいます。  
コントロールと読みます。



マウスのスクロール  
ボタンとはココのことです。

網野智世子の秘伝～英語が奇跡的に上達したある1つの秘密を公開します～



ここをクリック  
すると同じ効果  
が得られます。

矢印に示してあるところをクリックすることで、  
文字を大きくしたり、小さくすることもできます。

せっかく、私の本を読んでいただくのですから、  
一番見やすい文字でみてくださいね☆

では本題に入りましょう・・・

## ★おことわり（著作権に関する事項）

### Remarks on copyrights

この書籍における辞書・新聞記事等の著作物の引用箇所はすべて明記し、これ以外の引用は行っていません。

辞書を除く著作物の引用に際しては著作者の許諾を得ています。

テキストの全部または一部を著者に無断で複製し第三者に譲渡することは有償・無償を問わず著作権法上禁止されています。

以上の点をご了承頂けますようお願い申し上げます。

## HP にのせてあった「問題」の答え・・・

A 「私は目が悪い」 My eyesight **is** poor.

答え：I **have** poor eyesight.

B 「きょうの英語の宿題は難しい」 Today's English homework **is** difficult.

答え：I **have** trouble getting today's English homework done.

C (資格試験の受験生が)  
「今年の試験に落ちても、来年またチャレンジします」  
If I fail in the exam this year, I will **challenge** again next year.

答え：If I do not pass the exam this year, I will **try** again next year.

D (プレゼンなどで)  
「当社のこの製品は競合他社のどの類似品よりも性能が上回っているといえます」  
It can be said that the product of our company **is better than** any other similar of our competitor's.

答え：We are **convinced** that our product here our competitor's items.

なぜ、日本人はこのような間違いをするのでしょうか・・・  
この「違い」を心にとどめて・・・さあその秘密を公開しましょう！



## 1. 海外在住歴・留学経験ゼロでも業務対応10ヶ国語に！

こんにちは、私は行政書士兼多言語翻訳者の網野智世子と申します。

私は現在、日本語を入れてですが**10ヶ国語**を使って仕事をしています。  
例えば先月は就業規則のポルトガル語訳の仕事をやっていたし、今月に入ってHPに掲載する広告文の英語・中国語・フランス語・スペイン語訳の依頼を受けました。

その作業の途中でスペイン語の証明書の翻訳の仕事を頂き、これらの仕事を終わらせたらすぐ、技術文書の英訳の仕事を引き受けました。

初対面の人に自分の仕事について話すと、よく「どこかに留学していたんですか」とか「外国に住んでいたんですか」聞かれます。

答えはどちらも**No**です。生まれてから**36**年間、ずっと日本に住んで、小学校から大学まで、すべて日本の学校に通いました。

海外経験といえば、家族旅行で小学生と高校生のとときに**2**週間くらいアメリカ・イギリスに行ったことと、大学生のとときに所属していたサークルの関係で**18**日間アリゾナ州フェニックスと**NY**に滞在したことくらいです。

おそらく、これをお読みのあなたのほうが、ずっと海外在住歴・滞在歴が豊富なのではないのでしょうか。

英語を始めたのもあなたより決して早い時期ではありません。つまり、中学に入って英語の授業です。中学・高校の「科目」としての英語の成績は良いほうでした。いわゆる受験英語もかなり勉強しました。

## 網野智世子の秘伝～英語が奇跡的に上達したある1つの秘密を公開します～

しかし、大学に入って、あんなに勉強したはずの英語が全然「話せない」ことに愕然としました（笑）。

私の周りにはいわゆる帰国子女や高校での留学経験者が結構いたのですが、彼らがぺらぺら英語を話しているのを見て（うらやましい）と思うばかりでした。

また、大学を卒業した頃から司法試験の勉強を始めたので、それ以後は英語などやる余裕はとてなくなってしまうました。

そんな私ですが、30歳前にふとしたきっかけで英語のやり直し勉強を始めました。

それから短い期間に英検1級・TOEIC975点（リスニング満点）そして980点（リーディング満点）などの資格を取得しました。また、職歴ゼロで企業内通訳の仕事も獲得しました。

自慢話のようで恐縮ですが、ちょうどTOEICでその高得点をとった頃、英会話学校の電話レッスンのネイティブの先生に「私より英語うまいかもしれない」と言われたこともあります。

また31歳でスペイン語・ポルトガル語と出会ったのをきっかけに多言語の世界が開けました。

・・・あなたは「どうすればそんなことができるの」と思うかもしれませんが。私もかつては、「仕事で英語を使う」ことなんて夢の夢だと思っていました。

しかし、私は試行錯誤を重ねる中であるとき「あること」に気づきました。そして、「そのこと」に集中した勉強をすることで、このような短い期間でネイティブに通用する英語力、そして多言語の運用能力を身につけることができました。

網野智世子の秘伝～英語が奇跡的に上達したある1つの秘密を公開します～

それは言われてみれば「なんだ」と思えるような単純なことです。

・・・しかし、多くの日本人英語学習者が「そのこと」に気づいていないのです。

これからあなたに、「そのこと」つまりネイティブに通用する英語力そして世界の言葉の世界を開くためのキーポイントについてお話します。

さらに、そのポイントをおさえた上で、短期間で劇的に英語力をアップさせるための具体的な「勉強法」を提案させていただきます。

ここでは対象言語を「英語」に絞りますが、私自身はこの勉強法を他の8ヶ国語にも応用しています。

あなたがもし、これからお話しする  
「たった1つの秘密」をもとに  
毎日2,3時間程度、  
集中して勉強すれば・・・

なんと！！

あなたは**わずか92日程度**で、  
大人のネイティブスピーカーと  
充実したコミュニケーションが  
できるようになります。

この勉強法には、プロの英語ネイティブの翻訳者の方も興味を持っていらっしやいます。実践する上で多少の費用（数万円程度）はかかる可能性はありますが、決してあなたの生活に負担をかけるほどのものではありません。

安心して取り組んで下さい。

（以下の文章は、私からの**講演**だと思って読んでください・・・）

## 2. あなたの英語に魔法をかけるキーポイント

英語をマスターする奥義は・・・

# 「動詞の使い方」

にあったのです・・・

そうなのです。

「たった一つのポイント」とは、「動詞の運用語彙」・・・

つまり

「あなたが実際のコミュニケーションで使うことのできる**“動詞の語句”**をできる限り増やすこと」なのです。

網野智世子の秘伝～英語が奇跡的に上達したある1つの秘密を公開します～

・ ・ もう少し詳しく言うと、

「自然な英文のスタイルを習得した上で、そのような英文の中で使う**「動詞」の運用語彙を増やす**」ということです。

すでにお気づきだとは思いますが日本語と英語とではスタイルが全くと言っていいほど異なります。

英語は、世界の多くの言語と同様、端的に言えば**動詞が中心**と言える言語です。

be 動詞のような状態動詞も含めれば、英語では動詞がなければ意味の通る文を作ることができません。

つまり、「英語をものにしようと思ったら、出来る限り多くの動詞を使いこなせるようになることに優先順位を置いて勉強するべき」だといえます。

しかし、日本人の英語学習者の多くは**「動詞に弱い」**のです。

いいかえれば、英語の動詞の語彙が豊富でしかもそれらを実際のコミュニケーションで使いこなせている人の割合が非常に少ないのです。

## 網野智世子の秘伝～英語が奇跡的に上達したある1つの秘密を公開します～

・・・あなたはこのことをご存じでしたか？

私自身、このことは学校教育で教わったわけでもなく、英会話学校などで聞いたわけでもありません。

強いていえばあるとき NHK ラジオのビジネス英語のテキストで「英語をキャリアに活かしている日本人」として紹介されていた方が「日本人は名詞に強く、動詞に弱い」と言っていたのが目に留まったくらいです。

しかしそのときは、それはなぜなのか解明しようなどとは思いませんでした。

このレポートではこれまで私が公開したことがなかった「具体的な勉強法」にスポットをあてていますので、上で述べたことの根拠には立ち入りません。

ただ、具体的な勉強法を実践していただく上であなたに「これだけは頭においてほしい」ということを簡潔にお話させていただきます。

英語においては動詞の重要度が高い一方で日本人が「動詞に弱い」原因は、ひとことでいえば私たちの母語である日本語そのものにあります。

まず、日本語では、もともと**動詞の語彙が他の言語に比べて少ない**のです。

## 網野智世子の秘伝～英語が奇跡的に上達したある1つの秘密を公開します～

私自身は翻訳の仕事をする中で、このことに気づいていました。

英語や他のヨーロッパ言語（フランス語、スペイン語、イタリア語、ポルトガル語、ロシア語・・・）などでは動詞1語で表せることが、日本語ではそれに対応する動詞が見つからないことが多いのです。

では、日本語の中で、動詞のかわりに幅を利かせているのは何でしょうか？

・・・ひとつは「**形容詞**」です。

さらに、中国語の影響もあって「名詞」が動詞のような役割を果たすことも多いのです。

日本語において名詞は「体言」として文の主語にくることが多いですね。

これに対して形容詞は、「用言」つまり活用する言葉であり、単独で文の「述語」となることができます。もちろん形容詞は名詞を修飾する場合もありますが、主語のあとの助詞に続いて述語となることも多いですね。

他方、日本語では動詞も「用言」つまり活用する言葉としてとらえられ、例外的な場合を除いてはやはり「述語」として文の最後のほうにきます。

**日本語は形容詞が動詞と同等の機能を持つ**という、世界の中でも決してメジャーとはいえない文法的特徴を持っています。

網野智世子の**秘伝**～英語が奇跡的に上達したある1つの秘密を公開します～

(ちなみにこれと同様のことがあてはまる言語に韓国語がありますが；)

さらに、日本語ではしばしば**形容詞**が動詞にとってかわってしまうのです。

言い換えると、**他の言語では動詞を使って表現することを日本語では形容詞で「自然に表現できることが多い」**のです。

つまり、私たちが母語として使っている日本語には、

- ① もともと**動詞の語彙が少ない**。
- ② 動詞のような意味をもつ**名詞**、あるいは文の中で「用言・述語」として動詞と同等の機能をもつ**形容詞**がしばしば動詞に取って代わる。

という特徴があるといえます。

そのために、**日本人の英語学習者が話す、あるいは書く英語には次のような傾向がある**といえます：

- A. 本来は「人」を主語にして直後に一般動詞を使うパターンを使うべきところ、「抽象名詞」を主語、次に助詞、そして形容詞を使い「**XはYだ**」のような言い方をする。
- B. 動詞1語で表せるところをdoやmakeなどの**多義語＋名詞**を使った言い回しに頼る。



■上のAとBについてそれぞれ例を挙げると、

A. 「私は目が悪い」を

“My eyesight is poor.”

「きょうの英語の宿題は難しい」を

“Today’s English homework is difficult.”

などといい、

B. 「いますぐ、請求書をFAXでお送りします」なら

“Right now I send a fax of the invoice.” ;

「その庭のデザインは和田さんが担当しました」を

“The design of the garden was done by Mr. Wada.”

あるいは

“Mr. Wada did the design of the garden.”

などと言いがちではないでしょうか。

網野智世子の秘伝～英語が奇跡的に上達したある1つの秘密を公開します～

ちなみに、上の AB については下記のように表すのが英語として自然といえます：

A\*. 「私は目が悪い」：  
I have poor eyesight.

「きょうの英語の宿題は難しい」  
(例) I have trouble getting today's English homework done.

B\*. 「いますぐ、請求書を FAX でお送りします」：  
"Right now I fax the invoice."

「その庭の設計は和田さんが担当しました」：  
"Mr. Wada designed the garden."  
この英文の違いをよく押さえてください。

あなたがもし、AB のような言い方を (おかしい) と思わずに続けていたとしたら、言葉は悪いですがあなたの英語はネイティブに通用しないままになってしまいます。

もちろん、英語でも X is Y 的なパターンが自然であることはよくあります。しかし、それは (変な言い方ですが) 日本語ネイティブの使う英語よりはずっと頻度が少ないと思ったほうがよいです。私自身、単語はたくさん知っているのに日常会話さえおぼつかない状態が長く続きました。

網野智世子の秘伝～英語が奇跡的に上達したある1つの秘密を公開します～

それは単に英語を話す機会が乏しかったためでもあります。英会話クラスに行くなどしてネイティブと話す機会を作っても、「名詞イズ形容詞」の名詞だけはすぐ出てくるようになったけど・・・という感じでした。

しかし、30歳になった頃でしょうか。当時、外国語はまだ英語しかやっていたのですが、次のようなことを悟ったのです：

(そうだ。自分の言いたいことを英語で表すときは、a.まず「動詞に何を使うか」を考えて、それから b.主語と、c.動詞の後に持ってくる言葉に何を使うかを考えればいいんだ！！)

そして、このabcが頭の中で、一瞬にできるようになるためには、なんと言っても**自分が使える動詞を出来る限り増やさなければならない**・・・と。

このことを悟ってからは、私の英語はみるみる上達していきました。

このときは通訳訓練をしていたため、リスニング主体の勉強をしていたのですが、その中でまず「**動詞をすばやく聞き取る**」ことを心がけるようにしました。

また、文章を読むときはまず「動詞」をマークするようにしました。

その結果、TOEICでも975点(リスニング満点)そして980点(リーディング満点)を取得することができました。

さらに、そのころ勤務していたインドのIT企業日本法人でエンジニアのミーティングの通訳を任せ、自分の英語がネイティブに通じる！という実感と喜びを得ることができました。

私は、英語学習を一本の木にたとえたとすれば「幹」の部分をこのときに体得したのだと思っています。

私自身は、細かい文法事項や「TPOをわきまえた表現のしかた」や発音などは、「英文パターン+動詞の習得」の重要性に比べれば枝葉にすぎないと思っています  
(もちろん、それらが不要だなどとは決して言いませんが。)

ではこれから、以上のことを踏まえて「大人のネイティブレベル」の英語を身につけるための「戦術」つまり具体的な勉強法を提案させていただきます。

あなたの前には豊かな、豊かな英語の動詞の世界が待っています！

### 3. 100日でネイティブに通じる英語を身につける！

#### 戦術その1(基礎編)～動詞脳づくり～

ここでひとつ、ご了承くださいたいことがあります。

それは、「大人のネイティブに通じる英語」のレベルについてです。

これは、もしかするとあなたが思っているより高いものかもしれません。  
具体的には、新聞の読者投稿欄で使われているような英語のレベルです。

決して、凝った言い回しや文学的な表現までできるようになれとは言いません。  
しかし、**高度に専門的にならない範囲の社会的なトピックに対して自分の意見を筋道立てて表現できる程度のアウトプット能力を身につける必要がある**ということです。

ちょっと変に聞こえるかもしれませんが、あなたがもし日本で育った日本語ネイティブだとすると、「英字新聞記事はある程度読みこなせるけれども外国人に道をきかれたりするとうまく答えられない」ということがありますよね。

もしあなたの英語がそういう状態だとすると、つい（日常会話もおぼつかないのに、英語で新聞に投稿できるレベルを目指せだなんて）と思うかもしれません。

網野智世子の秘伝～英語が奇跡的に上達したある1つの秘密を公開します～

しかし、あなたが英語を使う目的を考えれば、前者（日常会話がぺらぺらになること）よりも後者（社会問題について自分の意見を筋道立てて話せるようになること）を「まず」目指して頂きたいのです。

なぜかって？これを「日本語」におきかえて、こう考えればわかります：

「日本人の小学一年生 Aさんと25歳の社会人 Bさんがいたとして、社会問題について日本語で自分の意見を話せるのはどちらでしょうか？」

ちなみに、小学校低学年の子供でも「日常会話」はぺらぺらなはずです。

・・・わかって頂けましたよね。

**社会問題について自分の意見を筋道立てて話すことができる能力は、何語であると問わず、「教養のある大人」の能力だから**です。

英語でそれができるレベルは、日本の英語検定試験で例えていえば、英検1級の2次試験に合格できるレベルです。

英検1級の2次試験で出るようなメジャーな社会問題について、自分の意見を話せるようになることを目指していれば、いわゆる日常会話の能力もおのずとついてくるはずですよ。

あなたの英会話力が、(軽いおしゃべりのような英会話なら苦労しない) というレベルだったとしても、英語力をキャリアに活かすためには「教養のある大人」の会話力を身につけられるよう努力する必要があるといえます。

網野智世子の秘伝～英語が奇跡的に上達したある1つの秘密を公開します～

(そんなの私には無理だ!)なんて思わないで下さい。

あなたが小学生ないし中学生だというならともかく、日本語で新聞やテレビのニュースを理解することができる大人の方なら、少なくとも日本の国内問題や日本の新聞に載っているような国際問題について英語で話すというのは決して無理ではありません。

さらに、私が提案する“Verb-centric” (動詞中心) の勉強法を実践すれば、それこそ数ヶ月でそのレベルの力が身につくものと思います。

## では、まず、「基礎編」として 次のようなトレーニングを提案します。

(「基礎」といいましたがそれは後で述べる「応用編」と並行して取り組むことができます)

### 重要

すなわち、ひとことでいうと

「市販の英語教材を利用した”動詞脳”づくり」のトレーニングです。

基礎トレーニングで使う教材として私がおすすめるのは

① **TOEIC の模試問題 (パート3～7)**

② **英検 1 級の過去問題・模擬問題・例文付語彙集**

③ **ラジオの「ビジネス英会話」テキストなどです。**

英検 1 級教材や「ビジネス英会話」などは難しく感じるかもしれませんが、短い期間で「大人のネイティブレベル」の英語力を身につけるためには、少なくともこのような教材の少なくとも 1 種類には接触している必要があります。

TOEIC の模擬問題も、ただ問題を解くだけではもったいないです。問題は易しいものから難しいものまでありますが、使われている英文はみな、実際にコミュニケーションで使うことができるものです。

これらを、次のような方法で「あなたの英語」として使えるようにして下さい。



## (a) 音声付教材の場合～リプロダクションの秘密～

例えば、TOEIC のリスニング問題を使うとして、こういうセンテンスが聞こえてくるとします：“Mr.Johnson suggested that we should further discuss the issue.”

このとき、

(i) まずは「**どういう動詞が使われているか**」に集中して聞きとるようにしてください。

この文でいうと **suggest** と **discuss** を聞き取れなければなりません。

・・・こう言うとあなたは「それだけ聞き取れたって意味がとれないんじゃないの？」と思うかもしれません。

確かにそうですが、しかし、こう言うことがいえるのではないのでしょうか。

「**Suggest** と **discuss** が聞き取れるのに、他の情報が全く耳に入らない」ということはいいのでは？

・・・そうです。この例文では決して難しい単語や言い回しが使われているわけではないですが、もしあなたがこの文の中の2つの動詞をはっきり聞き取れるのであれば、他の情報“Mr.Johnson”や“we should~”や“further”も耳に入っているはずですよ。

網野智世子の秘伝～英語が奇跡的に上達したある1つの秘密を公開します～

言葉で説明するのは難しいですが、動詞に注意を集中して聞くようにしていると、しだいに音声は「立体的に」聞こえるようになってきます。つまり、すべての音が聞き取れる上、あたかも動詞だけがより大きい音でナレーションされているように聞こえるのです。さて、このセンテンスが聞き取れたとしたら、

(ii) 次はこのセンテンスを「リプロダクション」してみてください。

**「リプロダクション」とは聞いた内容をそのまま声に出して「再生」することをいいます。**

この訓練はよく通訳養成学校の授業で行われていますが、複雑なセンテンスをミスなく再生することができるようになるのにはかなりの実力がいります。

そして、リプロダクションを行うときにはやはり、センテンスの中の「動詞」を意識して下さい。

さらに、その動詞の「用法」にも意識を向けてください。

上の例でいうと、①“suggest”が that 節をとること、②その that 以下の従属節の主語 we のあとに should があること(should 自体は省略可能ですが；)、そして③2 番目の動詞 discuss の後にすぐ目的語 the issue があること(つまり、日本人がよく間違って discuss の後に about や on をつけたりしますが、discuss は他動詞であるから前置詞を伴わないこと)などがそれにあたります。

また、

(iii) テキストに出ている日本語訳を**音読**してから、そのセンテンスを**リプロダクション**してみてください。

いわば日英通訳練習にあたるトレーニングです。

これにより、ほぼ同じ内容の日本語と英語との**構造の違い**が理解できると思います。

英文では人を主語にして直後に一般動詞を使っているのに、日本語訳では動詞を使わず主語に抽象名詞、述語に形容詞を持ってきて「XはYだ」的に表している、あるいは英文では動詞1語で表していることが訳では「名詞+助詞+する(なる)」などと書かれている、ということがよくあることに気づかれるでしょう。

簡単な例でいえば“Did you enjoy the movie?”に対して「その**映画(は)面白かった?**」と訳されている、

あるいは“Please note that any money left on the card will be nullified one year after.”に対して「カードの残金は1年経過すると**無効になる**のでお気をつけ下さい」と訳されていることなど。

もちろん上の3通りのトレーニングのほかにも、音声を聞きながら**シャドーイング**したり**ディクテーション**したりすることも有効です

#### ～豆知識コラム～

- ・ **ディクテーション**とは音声を聞いて書き取ることです。
- ・ **シャドーイング**とは英語を聞くそばから、影のように後から追いかけて口に出し、同じように発音し真似することです。

☆両方ともとても役に立つ英語学習法の1つです☆

網野智世子の秘伝～英語が奇跡的に上達したある1つの秘密を公開します～

使われている動詞、そしてその用法を意識しながらこのようなリスニング訓練を続けていくと、ただ音声を聞き流しているのに比べてはるかに効率よく短期間であなたの“spoken English command”(英語を聞く・話す能力)を高めることができます。

## (b) リーディング教材を使う場合～ショートナレーションの秘密～

ここでは、TOEIC のパート 7 を例にします。

TOEIC のパート 7 はとかく「よむのに時間がかかって、時間不足で全問解答できなくて・・・」という声を聞きます。

読解のスピードを上げるテクニックとしては「問題文を先に読むこと」などが有効だとよく言うのですが、私としてはそのようなテストだけのテクニックを超えた、あらゆる場合の英文読解に有効で、なおかつそれをあなたの表現力アップにも活かせる方法をお教えしたいと思います。

それは「英文の中の動詞を色づけすること」です。

ここでいう「動詞」には①一般動詞の能動態ほか、②動名詞・③[be 動詞＋受動態]、④動詞の時制変化に伴う[助動詞・be 動詞＋動詞の変化形]のセットを含めてよいと思います。

なぜかという、これらも含めた少し広い意味での「動詞類」を使いこなす力をつけることが大事だからです。

網野智世子の**秘伝**～英語が奇跡的に上達したある1つの秘密を公開します～

なお、**自動詞に伴う前置詞**については、私自身は色づけしていませんが、これは色付けしてもどちらでもかまわないと思います。

色付けする、というついで、わからない語彙・語句や重要だと思う箇所に色をつけたくくなりますよね。

それもよいのですが、そういう語彙・語句や箇所に色をつけたい場合は**動詞類とは別の色**にしてください。

ためしに、TOEIC のパート7の文章の中の動詞類を色鉛筆かクーピーペンシルで**オレンジ色**でマークしてみてください。

頭で考えるとつい、「動詞だけマークしたって・・・」と忘れてしまいますが、とにかく**1**回、他の箇所には色をつけず、文章全体の動詞類だけを色付けしてみてください。

・・・すごく、読みやすくなったのではないのでしょうか？

しかも、動詞だけ色づけしていながら、動詞ばかりでなく、他の重要な情報も読み取りやすくなっていることを実感されると思います。

次に、問題を解くのもよいのですが、私がおすすめるのは**文章をそのまま覚えてしまう**ことです。

網野智世子の秘伝～英語が奇跡的に上達したある1つの秘密を公開します～

何も、パート7の問題すべてとはいいません。あなたが「これ面白そうだな、役に立ちそうだな」と思ったパッセージを選んでかまいません。

それを、動詞を意識しながら繰り返し音読して、「人前で暗唱できるほど」になってしまうことです。(私はこの訓練法を「ショートナレーション」と呼んでいます)

これも、そういわれるとつい頭で「そんなことしたって」と思ってしまうかもしれません。

しかし、TOEICの模擬問題は、公式問題集はもちろん、市販のものでも「使える」英文の宝庫です。パート7の文章もそのまま覚えても決して無駄にならず、むしろあなたの表現力アップに大いに役立つものと思います。

私の経験では、150～200ワードくらいの文章を暗唱できるようになるには・・・

**最低 100 回**は繰り返し「ショートナレーション」する必要があります。

しかし、100回も繰り返していると、ものすごく得るものがあります。

なによりまず「舌が回る」ようになります。英語業界で流行している言葉をもじって言えば「英語舌が鍛えられる」という感じです。

網野智世子の**秘伝**～英語が奇跡的に上達したある1つの秘密を公開します～

それから、動詞をマークした文章をイメージしながらナレーション練習を繰り返していると、**リスニングの聞き取り能力もアップ**します。

聞こえてくる英語が、あたかも動詞を色づけした字幕つきで流れてくる感覚が身についていくのです。

ですからこの「**ショートナレーション**」のトレーニング、後で述べる応用編の「**ショートスピーチ**」とともに、ぜひぜひ実践して頂きたいです。

(a)でのトレーニングで「ネイティブ発音」を体得しながら、あわせてリーディング教材の文章を暗唱する「**ショートナレーション**」の訓練を**1日15～20分**くらい行うことをおすすめします。

これを積み重ねることによる効果は私が保証します^^



## 4. 100日でネイティブに通じる英語を身につける！

### 戦術その2(応用編)～ショートスピーチを添削してもらおう～

3.で述べた基礎編のトレーニングを実践して頂くと、しだいにあなたの頭の中は「動詞を色づけした字幕付きの英語音声」で満たされてくることと思います。

そこで、さらに能動的に「あなたの言葉」を話せるようになるためのトレーニングを加えたいと思います。

ひとことでいうと、さっき、ちらっとお話した「**ショートスピーチ**」のことです。

3の「ショートナレーション」が、いわば「他人の書いた文章」をナレーションする訓練であるのに対して、「スピーチ」は**あなた自身が考えて書いた英文を話す訓練**です。

あなたは英語ネイティブと話した経験が多かれ少なかれあると思いますが、大まかにいって彼らには日本人と異なる傾向がいくつかありますよね。

例えば、あなたが「私は何々が好きです」とか「よく何々します」と言うと、「なぜ好きなのですか」とか「なんでそうするのですか」などと、あなたの考えや好みの「理由」や「根拠」を聞かれることが多いと思いませんか？

網野智世子の秘伝～英語が奇跡的に上達したある1つの秘密を公開します～

日本人的には「え～、ただなんとなく」と答えたいところですが、英語ネイティブ相手に“I have no particular reason for it.”などと繰り返していると、すごくつまらない人間だと思われるでしょう^^;

逆に、そこで簡潔にでも理由や根拠を答えられれば、会話がぐっと盛り上がって行くことがよくあります。そこで、**簡単でいいですから、あなたが思うことや好んですることとその「理由」や「根拠」をまとめておくことをおすすめします。**

実は、この作業こそが、「大人の英語を話せるようになる」ために必要なことなんですよね。

話題は、ごく個人的な趣味や嗜好から国際問題や国内の政治経済問題に対する自分の意見まで、数にして**20から30テーマくらい作ることができればよい**と思います。

1テーマあたりの分量は**200ワード**くらいが理想ですが、最初は**3~4**センテンス、**50**ワードくらいでもかまいません。

ただ、話す内容は手書きでもパソコンでもよいですから必ず「**文章化する**」ようにして下さい。

**そして、一度はあなたが書いた文章をネイティブに添削してもらうことをおすすめします。**

そしてネイティブに直してもらった文章を  
**暗唱できるまで繰り返し声に出して**  
**スピーチ練習するわけです。**

(疲れるようでしたら、**心の中で唱えるだけ**でもいいですよ。)

・・・実はこの方法、トロイ遺跡を発掘した有名な考古学者シュリーマンが自ら実践した語学習得法でもあるんです！

シュリーマン博士は語学に堪能なことでも有名で、**15ヶ国語**を操ったといわれていますよね。

ですから英語力アップの訓練法として自信をもっておすすめできるわけですが、私としては上の作業にもう一つ、加えて頂きたいと思います。

あなたが書いた「ショートスピーチ」の原稿をネイティブスピーカーに添削してもらったら、それをできればパソコンで清書して、**やはり（笑）動詞に色をつけて下さい。**

教養ある大人のネイティブスピーカーは、日本人がなかなか思いつかない動詞を教えてください。かなり英語ができる日本人でも、こと動詞の語彙力ではネイティブとは一步隔たりのあることが多いようです。

網野智世子の秘伝～英語が奇跡的に上達したある1つの秘密を公開します～

逆にいえば、添削された原稿はあなたにとってすばらしい財産になります。

・・・しかし、この作業は3のナレーションに比べると頭を使いますから、つい億劫になりがちですよ。

そこで、最もシンプルで続けやすい50ワードレベルのスピーチの構成例をご提案します。

①私は今、〇〇というTV番組を毎週欠かさず見えています。

**(自分が興味を持っていることについて話題提起)**

(英語表現例)Recently I watch a weekly TV program(show) titled "XXX" regularly.

②(なぜなら)その番組ではいろいろな分野で「挫折や逆境を乗り越えて成功を勝ち取った人」にインタビューしているのですが、各週に登場する人の経験談やその人の人生観を聞いていると、とても元気づけられるからです。

**(興味を持った根拠)**

The program features interviews on individuals who achieved success overcoming failures or adversity. I joined its viewers because I get energized so much as I listen to every interviewee's story on his/her experiences or his/her view on life.

③私はときどきそれをビデオに録画して、気分が落ち込んだときなどに見て元気を取り戻せるようにしています

**(感想などを少し掘り下げる)。**

Besides watching it when aired, I sometimes videotape it and watch when I feel blue(get depressed) to cheer myself up.

・・・こんな感じでよいと思います。

そして、これを**3～4センテンスの英文で表現する**わけです。

(上の例につき、英語表現例を対訳で示しました。お気づきのよう、動詞類をグリーンで色づけしています。句読点抜きで66ワードですね)

ポイントとなるのは**1**で述べた「主語＋一般動詞＋目的語（補語）」を基本とするパターンの文を作ることと、その中の「**一般動詞**」に何を**使うか**です。

また、「なんとかイズ interesting」のような名詞 is 形容詞のパターンを極力使わないようにして下さい。(他に表現方法が思いつかない場合だけ使うようにして下さい)

さらに、同じ言い回しを繰り返すこともできるだけ避けて下さい。上の例では、「**〇〇というテレビ番組を毎週見る**」ということを表すのに最初は watch a TV program titled XXX、次に joined its viewers(直訳＝その番組の視聴者に加わった)というふうにパラフレーズしています。

・・・このようなスピーチを書く作業には、語学を超えて、あなたの「**価値観**」や「**人生観**」を**明確にすることができると**いう効果もあります。

網野智世子の秘伝～英語が奇跡的に上達したある1つの秘密を公開します～

そしてそのような「価値観」や「人生観」は、世界の中であなたしか持っていないものなのです。

私たち日本人はとかく英語を話すのを恥ずかしがるといわれていますが、何語を話す場合であろうと、「**あなたの思考をことばで表現できるのはあなたしかいない**」のです。この「ショートスピーチ」を実践されると、それを実感できると思います。

なお、身近にあなたの英文を添削してくれるネイティブが見つからない場合は、添削/英文校閲サービスを行っている下記の業者をおすすめします：

## 添削／英文校閲サービスのオススメ業者

(校閲とは文書や原稿などの誤りや不備な点を調べ検討し訂正したり校正したりすること。)

「**エディテージ**」 <http://www.editage.jp/>

200ワードあたり1,300円で、添削レベルも選択可能。

「リライト」を選択すればネイティブレベルの英語に直してくれます。

「**国際交流センター**」ワールド外語学院

日記添削コース <http://www.iec-cals.co.jp/>

1ヶ月5,250円で、内容・分量とも自由。

網野智世子の秘伝～英語が奇跡的に上達したある1つの秘密を公開します～

最初は少し面倒に思うかもしれませんが、この「ショートスピーチ」は、やればやるほど英語表現力、いえ、英語を超えた「言語操作能力」アップにつながるトレーニングです。

もちろん、ビジネスでのコミュニケーション能力アップにも結びつきます！

・・・この「ショートスピーチ」のトレーニングの進め方としては、1週間に2～3テーマの短いスピーチを作文してネイティブに添削してもらい、それらを流暢に話せるようになるまで繰り返し声に出してナレーションするのがよいと思います。

50～100ワードのショートスピーチが楽しくなってきたら、英検1級の過去問や教本を利用して、2次試験のように200ワードレベルのスピーチを作るようにして下さい。

## 4. 時をかける動詞

### ～英語を自由に話せる“バイリンガル教材”の御紹介～

さて、これまでお話した勉強法は、今回私が初めて書き下ろしたものです。

まずは日本語ベースにしましたが、近日中にすべてのセンテンスに英語対訳をつけた「バイリンガル」のバージョンをリリースしたいと思っています。

このレポートでは「短期間でハイレベルな英語力を身につけるための戦術」の御紹介にほぼ焦点を絞りました。

これら個々の「戦術」は、あなたにとってもしかしたら目新しいものではなかったかもしれませんが、私がしつこいほど強調している「**動詞を中心に、あるいは動詞を意識しながら勉強・訓練する**」という考え方はあなたにとって新鮮だったのではないのでしょうか。

私は、最初の方で述べたように英語だけやっていた時点で動詞の大切さに気づきましたが、後に10ヶ国語あまりの言語を勉強する中で、それが英語に限らず、すべての言語に共通するものであることを悟りました。



網野智世子の**秘伝**～英語が奇跡的に上達したある1つの秘密を公開します～

言い換えれば、「動詞」をマスターすることこそが、あらゆる言語を習得するための「鍵」になることを。

・・・そして、**動詞**という種類の言葉の背景に「**人間の力を超えたもの**」の存在があることを悟ったのです。

他方、動詞があらゆる言語の中で重要な地位を占めるものでありながら、日本人は特に「**動詞**」に弱いのはなぜか。その根拠も自分なりに解明しました。

・・・あなたは、この話にご興味がありますか？

私は、英語学習者を念頭におきつつもおよそすべての「語学」を学ぶ人に読んで頂きたいという気持ちをこめて、「語学習得の秘訣」を**日英対訳テキスト**にしました。

このテキストでは抽象的な話だけでなく、実際に**大人のネイティブレベルの英語表現力を身につける上で役立つ話**も盛りだくさんにとりいれました。

すなわち、**A.英語力アップ**に直結する、しかし日本人が使いこなせていない動詞を20ほど取り上げてその用法やその動詞を使った文章を紹介し【第三章】、さらに**B.大人のネイティブレベルの表現力養成**に欠かせない「**英字新聞記事**」の徹底活用法を提案しています【第四章】。

名づけて

## TOEIC980点獲得！30歳からできたラクラク英語マスター法 ～10ヶ国語マルチリンガルが語学習得の秘訣を余さず告白！～

既にテキストをお読みになった方々からは「素晴らしいの一言です！」「**全文日英対訳**のスタイルといい、動詞に焦点をあてた勉強法といい、ありそうでなかった斬新なテキストです」「英語力アップに非常に役立つ話を読みながら、対訳形式で役に立つ英文を身につけることができる！」など、高い評価を頂いております。

もしあなたが「ショートスピーチ」などは今すぐ実践するのは億劫だ、と思ったとしても、たとえばこの教材テキストの第3章や第4章を対訳で読み、あるいはCDを聞くことで「大人のネイティブレベルの表現力」を快速で身につけることができるので、テキスト第3章・第4章の学習と並行しながらスピーチを作ることは非常におすすめです。

### ぜひ、ホームページへ！

読むだけで得になる情報を盛り込んでおきました

<http://www.aminochiyoko.com/index2.html>

を一度、ご覧になってみて下さい。

網野智世子の秘伝～英語が奇跡的に上達したある1つの秘密を公開します～

なお、「メルぞう」に既出の日英対訳レポートでは、日本人が言いがちな「なんとかイズ difficult」に焦点をあてて、そのような言い回しの問題点を指摘するとともに「では、自然な英語ではどういったらよいか」を状況別に提示しています。(バイリンガル 15 ページ)

**「” English is difficult” は卒業しよう！**

**英語表現力養成プロジェクト」**

<http://mailzou.com/get.php?R=1929>

このレポートをお読み頂き、誠にありがとうございました。m(\_\_)m  
今後ともお付き合い頂けますよう、よろしくお願い申し上げます。

多言語翻訳者・行政書士

網野智世子

## PS

日記添削をあなたに紹介しましたが、私もいまでも日記を書いて、それを英語に翻訳したり、他言語に翻訳しているんですよ！！  
(今現在、20ヶ国語に挑戦しています)

その日記をブログで日々更新しているので、ぜひ、わたしのブログも見に来て下さい!!

あなたが日記添削をする上で、参考になるように頑張っていますので(笑)  
ぜひよろしくお願ひ致します！

ちょっと見に来るだけでも、あなたの語学習得に役立つことを保証します！

私のブログはコチラから↓↓

<http://plaza.rakuten.co.jp/tagengomama1970/>

だいたい3ヶ国語で書いていますので勉強になるはずです☆

やっと、読み終わった。

そう思ったあなたに残念なお知らせです・・・

この本を馬鹿にしないで欲しいのです。

この本のノウハウを忘れない欲しいのです。

この情報をちゃんと使って、英語を勉強して欲しいのです。必ず効果があります。

私には自信があるんです。

2008年現在で、私自身20ヶ国語をマスターしようと勉強しています。

昔は、私だって話せなかったんです。

でも、話せるようになった。

それは、この本で述べたノウハウを使ったからなのです。

英語単語なんか覚えて忘れるのなんて、  
もう、当たり前なんです。  
年をとるたびに、そりゃ記憶力だって衰えます。  
でも、あなたが、英語を話したいなら  
"英語を話すぞ！"と決めるしかありません。  
この本には奥義を、そのまま書きました。  
ただ読んだだけではなくて、**実行**して下さい。  
あなたの英語の実力がのびた！という喜びの声  
をまっています。

あなたの出会いが、偶然ではなく、  
必然だったこと。  
そして、あなたに会えたことに感謝しています。



って、まだ終わらないんです (笑)  
これからなんですね・・・

# 特別付録

## “English is difficult” は 卒業しよう！

～海外在住歴ゼロでTOEIC980点取得、

10ヶ国語を運用するママさん行政書士が日英対訳で贈る

「英語表現力養成プロジェクト」～

**Outgrow the “English is difficult” pattern Japanglish:  
A bilingual program that provides a key to acquire  
active command over English**

**Elaborated by an Administrative Attorney with knowledge of  
10 languages and no overseas residence record**

## 【この付録本の使い方】

この付録レポートは、私が作成した「ラクラク英語マスター法」のテキストと同じ方法で、作成しています。私のノウハウと、その日本語に対する英語の翻訳があります。英語学習のノウハウを理解しながら、英語も勉強できるともお得なつくりにしてあります。セットで覚えれば、今すぐにも使える文章ばかりです。

まず、①私の日本語を読んでいただいて、その後に、②英語の文章をひとつずつ理解しながら読んでみて下さい。わからない単語が出てきたなと思ったら、日本語の文章のほうを見て、「この言葉はどういう意味なのか」をひとつずつ理解しながら使ってみて下さい。

自分にとって必要な文書が見つかりましたら、しっかりとマークをしておいて、その文章を理解しながら覚えてしまいましょう。一番いいのは、何度も口に出して頭にしみこむまでやることです。忘れても覚えるまで何度でも繰り返すのがコツです。具体的には、10回を10セットやって下さい。それでも忘れてしまったら、再度10回を10セットやって下さい。自然に口から出てくるようだったら、もうその文章はOKです。（音読する時は、“心で唱える”のでも小声でも全然OKです）

こうやって、私のノウハウも理解しながら、その日本語に対する英語の翻訳も理解して、覚えて、自分自身の英語学習に加速をつけて下さればいいと思います。

(この文章はできる限り“印刷”して下さい。スキマがあるのは、書き込みをして使って欲しいからです。特に50歳から70歳の方でも簡単に使えるように配慮してあります。調べたものはすべて書き込みしましょう。この本は3日で読むことを目的として下さい。英文の意味は3割わかればOKです！)

※ラクラク英語マスター法は、今、改定中ですが、余白は入っておりません。  
それで約190ページあります。

## 1. 「英語を話すのは難しい」

### =English is difficult to speak?

(1) このレポートでは、日本語を母語とする英語学習者が陥りがちな英語表現パターンの代表ともいえる”なんとかイズdifficult”を取り掛かりとして、英語的な発想や英語表現力を身につけるための「鍵」を提案したいと思います。

In this report I would like to offer you a key that will enable you to think and express yourself in authentic English. This key features a typical pattern followed by English learners of Japanese, represented by “something is difficult.”

(2)まず、突然ですが、あなたが仮に未だ英語の会話力・ライティングに今ひとつ自信がないとすると、上のような英語を話したことがあるかもしれません。

For starters, suppose that you have not yet gained confidence in spoken or written English. You may have, at least once, uttered statements such as:

(3)そう、「英語を話すのは難しいです」と言おうとして “English is difficult to speak” と。

“English is difficult to speak”, in an attempt to communicate the idea of *Eigo wo hanasu nowa muzukashii desu* in Japanese.

(4)あるいは、”*It is difficult for me to speak English*”などと言ったことがあるのではないのでしょうか。

A similar statement would be, “*It is difficult for me to speak English.*”

(5)・・・ここであなたは「え、その言い方が間違ってるの？」と思うかもしれませんが、こういう言い方じたいは文法・語法に照らして「間違っている」とまではいえません。

The thought may **cross** your mind that such a statement **constitutes** incorrect English. However, let me **assure** you that this doubt **is unjustified**; you **are** not “**making** a mistake” in grammar or usage.

(6)また、ネイティブの人にそのように話して通じないとまでも言えません。

I also **admit** that you can somehow **make** English-speaking people **understand** what you **intend** to **say**.

(7)しかし、もしあなたが日本語でなら「何々(すること)は難しい」と言いたい内容をすべて英語で”何々is difficult”と言っていたとすると、あなたの英語の上達は難しくなります^^;

However, if you always **use** a construction like “something is difficult” when you **wish** to **express** the English equivalent of “*Naninani (surukoto) wa muzukashii*”, I am afraid that you are unlikely to **make** significant progress in English.

(8)・・・と聞くと、あなたは「難しいイコールdifficult じゃいけないんだったら、hardとかtough とか言えばいいの？」と思うかもしれません。

Now, I **guess** you **want** to **argue** this by **saying**, “How about **rewording** it as ‘hard’ or ‘tough’ if you **recommend** not to **use** the word ‘difficult’ for *muzukashii*?”

(9)確かに、それらの別の言葉に言い換えても通じることは通じるでしょう。

You can certainly **convey** the same meaning by merely **replacing** it with other words like these.

(10)しかし、difficult だけを言い換えたのではあまり差はありません。

However, such a change will not **lead** to a significant difference.

(11)なぜかというところ・・・。

ここで、あなたに気づいて頂きたいことがあります。

Do you **understand** why? This is something I **want** you to **realize**.

(12)それは、上のEnglish is difficult (to speak)という言い方を英語ネイティブがするかどうかという問題です。

I **hope** you **have considered** whether native speakers of English **use** the construction “English is difficult (to **speak**)” often.

(13)ほとんどの英語ネイティブは、そのようには言わないと思います。

I **suppose** most of them do not.

網野智世子の秘伝～英語が奇跡的に上達したある1つの秘密を公開します～

(14)なぜなら、English is difficult (to speak)というのは、「英語(を話すの)は難しい」という日本語をそのまま英語に置き換えただけだからです。

This construction is merely a literal translation of *Eigo (wo hanasuno) wa muzukashii* into English.

(15)ここでちょっと、あなたの普段の日本語生活を振り返ってみてください。

I now **request** you to **spare** a little time to **review** your everyday usage of Japanese.

(16)具体的には後ほど、自然な英語表現の例をご紹介しますときに取り上げますが、かなり頻繁に「なにになには難しい」という言い方をしているのではないのでしょうか。

I **will provide** examples in authentic English later, I **suppose** you **use** the construction “*Naninani wa muzukashii*” quite frequently.

(17)なぜかという、この言い方は、二つの点で日本語ないし日本人の国民性にマッチするものだからです。

This is because this manner of **expressing** an idea is in **keeping** with the Japanese language or the national characteristics of the Japanese in two aspects.



(18)一つ目は、自分の意思、特に「拒絶」や「不可能」といったネガティブな内容を含む意思をはっきりした言い方で述べることを嫌う日本人が、それらをあいまいな言い方にぼかすことで他人との対立を避けるために非常に便利な言い方だからです。

First, most Japanese who **abhor** to **express** their own intention distinctively, particularly when it **contains** the negative idea of “refusal” or “impossibility,” **find** it very convenient to **speak** in this manner to **equivocate** the expression and **avoid** conflict against others.

(19)・・・これは、私も含めて多くの日本人が思い当たるどころだと思います。そしてこれが、英語圏だけでなく他の言語を母語とする人々・企業との間でトラブルの原因になったりしますよね。

I **believe** that many Japanese, **including** myself, **use** such expressions when **faced** with a similar situation. This manner of **expressing** ideas sometimes **leads** to trouble with individuals or corporations in English-speaking countries or other non-native speakers of Japanese.

(20)実際に聞いた話なのですが、日本企業が外国企業との取引上の交渉で、日本側のスタッフが相手方の提案を受け入れられないときに日本語の感覚でIt is difficult for us to accept your proposal などと言いました。

Let me **provide** a real example. A businessman in a Japanese company, in a negotiation with a foreign business counterpart, **found** it impossible for his company to **accept** the other party's proposal. His statement in English, “It is difficult for us to **accept** your proposal,” was merely a little translation of this idea in Japanese.

(21)相手方は(そうか、難しいけど受け入れられなくはないんだ)と思い、その提案に基づいた行動をとってくれるものと期待していました。

The counterpart **interpreted** thus: “They somehow **accept** our proposal, but **will find** it difficult to **implement**.” This **led** to the expectation that the Japanese side would **take** action **based** on the proposal.

(22)しかし、日本側はそのような行動をとるつもりは全くありませんでした。

However, the Japanese **had** absolutely no intention of **doing** what was actually **expected** of them.

(23)そして次回2 者が会ったときに、相手方から「この前の話ですがご対処いただけましたか」と切り出されて「え？」ということになったわけです。

The next time they **met**, the counterpart **began** the discussion by **asking** for a confirmation on whether the Japanese side **had begun** work on the proposal **presented** at the previous meeting.

...As you can **imagine**, the Japanese **failed** to **understand** what the counterpart **meant**.

(24)つまり、多くの場合にdifficult の持つ意味が日本人の感覚と相手方のそれとでずれているのです。

This example **represents** the gap in the interpretation of the word “difficult”, between the Japanese and people from different cultural backgrounds.

(25)話を戻して二つ目ですが、こちらはより技術的な、そして多くの日本人英語学習者が気づいていない問題です。

Secondly, the Japanese tendency to **use** the phrase “be difficult” too frequently **has** more of a technical basis, which most English learners of Japanese do not **realize**.

(26)実を言うと私自身、外国語として英語だけをやっているときはこのことに気づいていませんでした。

To be honest, I too **failed** to **realize** this when English was the only foreign language I **was learning**.

網野智世子の秘伝～英語が奇跡的に上達したある1つの秘密を公開します～

(27)私は5年前にスペイン語・ポルトガル語を始めたのをきっかけに10ヶ国語以上の言語を学び、現在では日本語を含めて10ヶ国語を仕事で使っています。

I **began to study** Spanish and Portuguese five years ago. This **stimulated** my appetite for **learning** as many as a dozen languages,

(28)この多言語習得の過程で、特に私が力を入れてきたのは各国語での作文練習でした。

When **learning** several different languages simultaneously, I **place** a high priority on written practice in those languages.

(29)04年春に始めた楽天のブログ<http://plaza.rakuten.co.jp/tagengomama1970/>で、対訳形式で数ヶ国語で日記を書く試みが続けていますが、これはその一環です。

Let me **give** you an example of output-oriented language learning: I **have been keeping** a multilingual diary in a parallel translation style on the abovementioned blog since spring 2004.

(30)日本語で書いたことをいろいろな言語で書こうとすると、当然辞書を頻繁に引くことになりま  
す。

If you **attempt** to **provide** multilingual equivalents of your statements in Japanese, you **will need** to **consult** dictionaries once in a while.

(31)各国語の辞書を引き、調べる語彙の例文を参考にするうえで必要な技術のひとつが「文の  
品詞分析能力」です。

And you **will acquire** the skill of **analyzing** sentences into parts of speech, which is necessary to **incorporate** into your vocabulary the sample sentences in the language you **are learning**.

(32)つまり、ある文を単語に分解して「これは名詞、これは動詞、これは限定形容詞・・・」などと品  
詞に分類することができないと、例文を正しく理解して自分の書く文の参考にすることができない  
のです。

In other words, you cannot wholly **understand** the sample sentences and **incorporate** them into your own writing unless you are able to **categorize** a sentence into parts of speech, **separating** each component as a “noun, verb, definitive adjective...” etc.

(33)・・・各国語での作文そして同じ内容の日本語との比較を続ける中で気づいたこと、それが「日本語の典型的パターン」についてです。

I **kept** practice on it, **comparing** equivalents in each language with the original Japanese and I **realized** there is a typical sentence pattern in our native language.

(34)すなわち、日本語では「名詞+助詞+形容詞」のパターンで文を作ることがとても多いのです。

That is, we are very likely to **create** sentences in the “noun – postpositional particle – adjective” pattern.

(35)そう、「何々は難しい」という言い方は、まさにそのパターンにあてはまるのです。

Now, you may be aware that the Japanese *Naninani wa muzukashii* **does correspond** to this pattern.

(36)・・・このことと、特にネガティブなものごとに対してあいまいな言い方を好む日本人の国民性がかけあわさって、日本人は「何々は難しい」という表現を好んで使っているのではないかと思います。

This, together with our national preference for equivocal expressions, particularly when **expressing** negative ideas, **makes** us **inclined** to **use** the *Naninani wa muzukashii* pattern.

(37)従って、タイトルの「英語を話すのは難しい」という言い方はいわば日本人の国民性を反映した日本語的表現だといえます。

Thus the “*Eigo wo hanasunowa muzukashii*” manner of expression **follows** the typical Japanese sentence pattern and **reflects**, in my opinion, the national predisposition of the Japanese.

(38)そして、多くの日本語ネイティブが学校英語で「難しいイコールbe difficult」と習っているため、この日本語表現をそのまま英語でEnglish is difficult to speak あるいはIt is difficult for me to speak English などという人が多いように思います。

Since many native speakers of Japanese **were taught** in school that *muzukashii* is equivalent to “be difficult,” we are likely to literally **translate** it into English as “*English is difficult to speak*” or “*It is difficult for me to speak English.*”

(39)・・・ここまで読むとあなたは「じゃあ、日本語でそういたい場合に英語らしい英語ではなんと言えればいいの？」と思われませんか。

You may **react** to this by **saying**, “Then how can I **express** this in authentic English when I **think** it in Japanese?”

(40)そこで次に、「英語を話すのは難しい」を初めに、日本語では「何々は難しい」ということで済む場合に英語ではどのように表現すればよいのか提案させていただきます。

In the next segment, I would **like** to **present** my idea on how to **express** in English the Japanese *Naninani wa muzukashii*, which **occurs** naturally to us.



## 2. 「私は英語を話すことにまだ自信を獲得していない」

### ～difficult の言い換え例～

“I have not gained confidence in speaking English”: paraphrasing examples of “be difficult”

(41)まず、「英語を話すのは難しい」。これを英語で表現する上で、まずあなたにぜひ心得て頂きたいことをお話します。

Let me **begin** by **telling** you what must **be borne** in mind when you **express** the idea of *Eigo wo hanasu nowa muzukashii*.

(42)それは、英文の基本スタイルについてです。言い換えれば、あなたが「英語で考える」ことができるようになるための英文パターンについてです。

It **pertains** to the “standard style” of English sentences.

In other words, it **pertains** to the English sentence pattern that **enables** you to **think** in English.

(43)もちろん英語にも、「何々は難しい」をそのまま英語にしたような文型すなわちbe動詞と形容詞を使った、学校英語でいうところのSVC 文型もあります。

Of course, English sentence patterns **involve** that *Naninani wa muzukashii* **be** merely **translated** into English; in other words, they **involve** the transformation of the “S-V-C sentence pattern,” which we **learned** in school, into “be-verbs” and adjectives.

(44)しかし、英語の場合はまず「人」を主語にして、直後に一般動詞そして次に目的語をもってくる、いわゆるSVO 文型が基本だと言えます。

However, I **suppose** that the standard English sentence pattern is what we **refer** to as the “S-V-O” pattern; this pattern **begins** with a subject, which **is followed** by a regular verb and an object.

(45)そこで、「英語を話すのは難しい」をこのパターンの英文で表現できるか考えてみましょう。

Now, let us **try to express** “*Eigo wo hanasu nowa muzukashii*” in English by **using** this pattern.

(46)ひとくちに「話すのは難しい」といっても、その人が置かれている英語学習環境はさまざまですよね。

The phrase *hanasu nowa muzukashii* **applies** to various situations **depending** on the speaker's English learning environment.

(47)なので、「大学受験の受験英語はものすごく勉強したけど。」「英会話学校に行っているけど;」「ラジオの英会話講座を毎日聞いてリピート練習もやっているけど;」など、具体的な話者の経験や状況に即した言い方を考えてみましょう。

Thus, let me **provide** examples by **assuming** the experiences or conditions of a speaker, (1) who **has prepared** intensively for a university entrance exam, (2) who **takes** communicative English lessons at a language institute, (3) who **listens** to English conversation programs on the radio everyday and **practices** repeatedly, etc.

(48)次のA からE までの日本語と英語対訳を対照して下さい:

A.「英会話学校ずっと行っているんだけど、まだ話すのが難しくて・・・。」

**Compare** the Japanese text with the English equivalents in A to E:

A. “I **have been taking** communicative English lessons at a language institute for a long time. However, I **have still not gained confidence in speaking English.**”

(49) B.「ラジオの英会話講座をずっと聴いていて、リピート練習もやっています。聞き取りはほとんどできるようになりましたが、実際に習ったことを使って話すとなると難しくて・・・。」

B. "I **have been listening** to an English conversation program on the radio for a long time and **practice** several times. I am now able to wholly **comprehend** the English contents; however, I am still unable to **put them to adequately use in actual communication.**"

(50) C.「大学受験のとき、英語はすごく一生懸命やっていて、予備校の模試の成績も英語はトップレベルだったんです。難しい単語とか熟語とかもたくさん覚えたし、難解な文章の読解問題も得意でした。大学に入ってから留学生の人と知り合ったとき、質問されたことに答えようとしたけど全然英語で答えられなかったんです。英会話の授業でもたどたどしくしかしゃべれないし・・・。こんなに、話すのが難しいなんて;」

C. "When I **was preparing** for my university entrance exams, I **studied** English intensively and **maintained** top standings in English at the prep school's simulation exams. I **learned** numerous exoteric words and idioms and was good at **reading** comprehensions on complicated passages.

However, after I **entered** university and became **acquainted** with a foreign student, I **found** myself unable to **answer** his questions although I **tried** my best to do so. Further, I often **falter** when I **speak** in English conversation classes. I **had not imagined that I would have so much trouble speaking English.**

(51)いかがですか。このように、何とかイズdifficult のパターンによらずに表現することができますよね。

I **hope** I **have convinced** you that we can **communicate** instead of **following** “something is difficult” pattern.

(52)このほか、日本人がとかく「何々は難しい」といいがちな例を検討してみましょう:

D.「(上司との会話で)・・・それを1週間以内に終わらせることは難しいと思うのですが・・・。」

Besides, let us **consider** further the situations in which the Japanese are likely to **use** the expressions *Naninani wa muzukashii*:

D. (In a conversation with a junior employee of the company, where the latter **reacts** to his superior's request) “I'm afraid I cannot **get it done within a week.**”

(53) E.「(高校生が友達と話していて)XX 大学の法学部に入りたいんだけど、進路指導のY先生が今の俺の模試の偏差値では難しいっていうんだよな。」

E. (A high school student **conversing** with his friend). I **want** to **enter** the faculty of law at XX University, but **according** Mr. Y, our academic counseling teacher **my simulation exam record shows that I am unsuitable.**

(54)これらの英文のように、日本語でなら「何々は難しい」と言いたいときに、英語ではあえてbe difficult を使わず、まず人+動詞+目的語のパターンで表現できないか考え、どうしても思いつかないときにやむをえずdifficult を使うという姿勢でいたほうがよいと思います。

Like the abovementioned examples, I **recommend** you to **try to express** “*Naninani wa muzukashii*” in Japanese by **using** the “person-verb-object” pattern instead of “be difficult.” If you are unable to **think** of any other ideas, you could finally **settle** for this one.

(55)こう聞くとあなたは「どうすればそういう英語らしいパターンの表現を思いつくようになるの？」と思うのではないのでしょうか。

I **guess** you **want to ask** me how you should **study** to be able to **think** up authentic English expressions.

(56)そこで次に、英語的発想をするためのキーポイントについてお話します。

Then let me **provide** you with a key that **enables** you to **do** this.

### 3. 「ことば」の世界を開く鍵

A key that **opens** the door to the world of languages

(57)さて、では、どうすれば英語らしい表現を思いつくようになるでしょうか？

Well, how can we **acquire** a sufficient command over English to **communicate** an idea in authentic English?

(58)この質問に対しては、英語の上級者といわれる人たちは皆、次のように答えると思います：「できるだけ多くの生きた英語に接して、英語らしい表現を頭にしみこませること」。

I **suppose** every individual who **is regarded** as a master of English **has** the following advice: “**Expose** yourself to as much authentic English as possible and **drill** it into your brain.”

(59)・・・これは私もそのとおりだと思います。また、私自身そのようにして英語の実力をつけてきました。

I do not **wish** to **deny** it; I too **have gained** command over English in this manner.

(60)しかしそれでは私自身があなたの疑問にお答えしたことにはなりませんよね^^;

However, I **realize** that this cannot be MY answer to your question.

(61)私自身は、仕事で使えるレベルの英語力を身につけてから、さらに10以上の言語を身につけようと試行錯誤する中で、あらためてわかったことがありました。

I **have formed** my own ideas on this, which **are based** on my realizations during the course of **learning** more than 10 languages after I **acquired** professional command over English; these realizations **were derived** from my trial-and-error attempts.

(62)それは、ひとことで言えば、自分が使える「動詞の語彙を増やすこと」こそが、英語そしてあらゆる言語を身につける鍵だということでした。

In short, the key to **acquire** English or any other languages is to actively **strive to build** rich vocabulary of verbs.



(63)英語について言えば、difficult の言い換え表現のところでお話した「人＋動詞＋目的語」のパターンを念頭に、「動詞」をできるだけ多く身につけることなのです。

And when it comes to English, you should master as many verbs as possible, adhering to the “standard” pattern of “person-verb-object,” which I mentioned when I provided example sentences containing the word “difficult.”

(64)そのことを頭において「生きた英語にたくさん接する」努力を続けていけば、英語的発想、英語らしい表現方法がどんどん身についていくのです。

With this pattern in mind, keep up your efforts at exposing yourself to as much authentic English as possible and you will surely assume way of thinking or expressing in English.

(65)私自身にも、このことを悟ってから面白い変化が起こりました。

After I realized this, some interesting events occurred to me as well.

(66)日頃英字新聞を読んだり英語ニュースを聴いたりしているとき、前者では記事の英文の中の動詞が「浮き上がって見え」、後者では動詞だけが「より大きな音に聞こえる」ようになったのです。

When **reading** an English-language newspaper or **listening** to news programs in English, verbs “**popped** out” in the former case while they “**were heard** louder” in the latter.

(67)それにより、読解や聴解のスピードが上がりました。つまり、英文そして英語音声を「より速く」理解できるようになったのです。

This **expedited** my comprehension when I **read** in or **listened** to English. That is, I was able to **comprehend** English passages or narrations “faster.”

(68)さらに、これは英語以外の言語の実力アップにも役立っています。

Further, I **found** that it **served** to **improve** my skills in languages besides English.

(69)私が初めてイタリア語の翻訳(技術文書の和訳でした)を引き受けたとき、文の中の動詞を探し当てて色づけをしていくと、みるみる文が理解できて翻訳作業が進んだのでした。

When I first **obtained** an Italian-Japanese translation job on a technical document, I **searched** for verbs in sentences and **colored** them. This was of tremendous help in **reading** a passage and then **translating** it.

(70)ちなみにこのときは似た内容のフランス語技術文書の和訳もあったのですが、フランス語のほうでも同じことが起こりました。

While **working** on this job, I **received** another translation job on a similar document in French, and I **underwent** the same experience while **translating** the French passages into Japanese.

(71)このような経験からも、「動詞を中心に勉強することこそが語学上達の近道だ」と確信するようになったわけです。

This experience **strengthened** my conviction that the shortcut to **gain** mastery over a language is to **focus** on verbs.

(72)と同時に、日本語ネイティブである自分、そして多くの日本人学習者にとって、「動詞」が英語そして多くの言語を身につける上で壁となっていることに気づいたのです。

At the same time, I **realized** that verbs to the contrary are an obstacle to me, a native speaker of Japanese, as well as many English learners here in Japan.

(73)端的に言えば、**日本人は動詞に弱いのです。**

**Frankly, the Japanese are poor at verbs**

(74)しかし、あなたはこれを聞いてちょっとがっかりしたかもしれません。「英語やイタリア語やフランス語では動詞が大事だって、それはそうでしょう。こういうヨーロッパの言葉では、文の中で主語のすぐ後に動詞がくるからでしょう？ だけど日本語では動詞はたいてい文の最後に来るよね。そして日本人が動詞に弱いていうのはそういう語順とか文構造のギャップのせいじゃないの？」

But you **are** not **satisfied**, I **guess**, with this answer, and **assume** the premise of my idea to be as follows: “It is quite natural that verbs **play** quite an important role in English, Italian, or French, as you **have mentioned**. This is because in these European languages, the verb immediately **follows** the subject in a sentence. However, in Japanese, it usually **comes** at the end of a sentence. Your supposition that the Japanese are poor at verbs **is based** on this gap, isn't it?”

(75)このご意見はもっともです。そして、世界の多くの言語ではこれに似た語順・文構造が基本になっています。これに対して日本語のそれは確かに、かなり違っています。

Your observation is correct; many of the world's languages **have** similar standards for word order or sentence structure, and these are certainly very different from those in Japanese.

(76)ですが、私にいわせればそれは、ことばの中の「動詞」の大切さの根拠のひとつ、あるいは表面的な根拠でしかありません。

However, in my opinion, these points **form** only a part of the premise, or even a superficial premise, for the importance of verbs in a language.

(77)動詞がことばの中で重要な役割を果たしている根拠は、英語とか何語とかいったひとつひとつの言語の枠を超えた、いわば人間の言葉にすべてあてはまる**普遍の真理**にもとづくものなのです。

Verbs in a language **play** a significant role, which **is based on a universal truth that applies to any human language**; it **transcends** the framework of each language, like “English.”

(78)・・・それはあくまでも私のオリジナルな仮説なのですが、私はそのことを、日本語も含めておよそ「ことば」を学ぼうとする人たち全てに知って頂きたいと思っています。

This is merely a hypothesis of my own construction; however, it is my wish that every language learner, **including** that of Japanese, **be acquainted** with this idea.

(79)このたび、私は多言語運用の過程であらためて悟った「英語上達法」をバイリンガルテキストにまとめました。

Recently, I **have created** bilingual document on the method of **acquiring** mastery over English; the document **incorporates** my realizations during the course of **learning** and **using** almost a dozen foreign languages.

(80)また、このテキストのすべてを米・英・カナダ・豪州国籍のプロの英語ナレーターと日本人ナレーターとの日英対訳方式によるCD に収め、テキストとセットでご提供することにしました。

Besides, I **plan** to **offer** a set of bilingual CDs that **contains** a narration of the entire text, by professional English-speaking narrators from the US, UK, Canada, and Australia. They also **contain** a narration in Japanese, which **will follow** the style of the Japanese-English equivalents.

(81)このテキストでは、上の「動詞の大切さ」の背景を探る仮説を展開するとともに、御紹介した difficult の例のような「日本人英語の弱点」を徹底検証しています。

In this course text, I **have developed** the entire hypothesis in my search for a premise for the importance of verbs. I **have also presented** a thorough examination of the negative characteristics of English as **spoken** by the Japanese, like the example of “difficult” **provided** in this report.

(82)さらに、英語上達の上で重要ながら日本人が使いこなせていない動詞を20ほど選び、あくまでも「自分でそれを使う」ことを念頭に置いた用法の解説を行っています。

Furthermore, I **have selected** 20 verbs that are of immense use in **acquiring** a very good command over English but **are not handled** well by the Japanese, and **provided** explanations **on their usage in actual communication**.

(83)また、最後の章では英語上級者となる上で必ず勉強してほしい「英字新聞」の記事を徹底的に活用し、その中で英語力アップのために重要な動詞を身につけられるような方法を提案しています。

In the last chapter, I **focus** on English-language newspapers, a material that in my view is compulsory for those who **wish** to **become** advanced-level English learners. I **have presented** a method that **makes** the utmost use of newspaper articles while **learning** important verbs to dramatically **improve** command over English.

(84)あなたが、高いレベルの英語力を身につけたいと思いながら何らかの「壁」を感じているとしたら、あるいは、英語で上級レベルの実力をつけたい一方で他の言語にも関心があり、言語を超えて共通する「語学習得の秘訣」を知りたいと思っていちゃるとしたら、

If you **wish to gain a very good command over English but are facing some impediment**, or if you **wish to acquire this proficiency while being interested in other languages and desire to know the secret to learn languages faster**,

(85)ぜひぜひ、私の教材「TOEIC980点取得！30歳からできたラクラク英語マスター法～10ヶ国語マルチリンガルが英語上達の秘訣を余さず告白～」をご利用下さい！（詳しくは、ビデオレター付・無料レポート請求ページ<http://www.aminochiyoko.com/>をご覧ください）

I would **like to offer** you the course material **titled “The entire secret to mastery over English, disclosed by a translator with command over 10 languages.”** For more information, please **visit** the abovementioned URL.

(86)なお、この無料レポートの英語対訳でも一般動詞\*をスカイブルーで示していますので、動詞に注意しつつ日本語と対照しながらセンテンスごとあなたの英語に取り入れてください。\*受動態、動名詞及び分詞形を含む

At this point, let me **remind** you that this report **provides** English equivalents for the entire text, with regular verbs\* **highlighted** in sky-blue. I **hope** that you **will pay** attention to these verbs, **comparing** the equivalents with the original Japanese sentences, and **incorporate** them into your everyday English. \*Includes passive form, gerund or participle



(87)最後にひとこと。もしあなたが、「とにかく今週、今月の間に英語力を上げなければ！」という必要に迫られているとしましたら、次のような勉強に少し時間を使うことをおすすめします：

Finally, let me **offer** you a small tip on **enhancing** your English speedily. If you **are urged** to **advance** your English skill level within such a short period as a week or a month, **do spare** some time to **study** the language in the following way:

(88)お手持ちの英検やTOEIC の参考書や問題集の例文・問題文の中の**SVO 系構文**を拾い出し、日本語と対照させながら、どのような場合にどういう動詞が使われているかを意識しつつ、その文ごと覚えるようにして下さい。

**Pick** as many sentences as possible from the “standard” pattern in the sample or stimuli sentences of preparation guidebooks or published simulation tests for *Eiken* or TOEIC®.

**Memorize** entire sentences, **paying** attention to the choice of verb in a certain situation, and **comparing** each sentence with its Japanese translations, if available.

(89)このレポートがあなたの英語上達のために少しでもお役に立てれば幸いです。m( )m

I **will be** extremely **gratified** if you **find** this report of some use in **improving** your English.

ここからは、【日本文のみ】と【英文のみ】の文章になります。日本文は、内容の復習に使って下さい。英文は、日本語がなくてもそのまま理解できるかどうかを確認するのに使って下さい。3割は理解できるように頑張ってみて下さい。特に、日本文がなくても英文がすらすらわかるようになれば、あなたの英語力は確実にUPしています！

ぜひ、そこを目指して、勉強してみましよう！

(この本は3日以内に読んでしましましょう。英文に関しては、3割わかればOKだな、程度で考えておいてください。全部暗記する必要はありません。)

## 【日本文のみ】

### 1. 「英語を話すのは難しい」=English is difficult to speak?

(1) このレポートでは、日本語を母語とする英語学習者が陥りがちな英語表現パターンの代表ともいえる”なんとかイズdifficult”を取り掛かりとして、英語的な発想や英語表現力を身につけるための「鍵」を提案したいと思います。

(2)まず、突然ですが、あなたが仮に未だ英語の会話力・ライティングに今ひとつ自信がないとすると、上のような英語を話したことがあるかもしれません。

(3)そう、「英語を話すのは難しいです」と言おうとして”English is difficult to speak”と。

(4)あるいは、”It is difficult for me to speak English”などと言ったことがあるのではないでしょうか。

(5)・・・ここであなたは「え、その言い方が間違ってるの？」と思うかもしれませんが、こういう言い方じたいは文法・語法に照らして「間違っている」とまではいえません。

(6)また、ネイティブの人にそのように話して通じないとまでも言えません。

網野智世子の秘伝～英語が奇跡的に上達したある1つの秘密を公開します～

(7)しかし、もしあなたが日本語でなら「何々(すること)は難しい」と言いたい内容をすべて英語で”何々is difficult”と言っていたとすると、あなたの英語の上達は難しくなります^^;

(8)・・・と聞くと、あなたは「難しいイコールdifficult じゃいけないんだったら、hardとかtough とか言えばいいの？」と思うかもしれません。

(9)確かに、それらの別の言葉に言い換えても通じることは通じるでしょう。

(10)しかし、difficult だけを言い換えたのではあまり差はありません。

(11)なぜかという・・・ここで、あなたに気づいて頂きたいことがあります。

(12)それは、上のEnglish is difficult (to speak)という言い方を英語ネイティブがするかどうかという問題です。

(13)ほとんどの英語ネイティブは、そのようには言わないと思います。

(14)なぜなら、English is difficult (to speak)というのは、「英語(を話すの)は難しい」という日本語をそのまま英語に置き換えただけだからです。

(15)ここでちょっと、あなたの普段の日本語生活を振り返ってみてください。

(16)具体的には後ほど、自然な英語表現の例をご紹介しますときに取り上げますが、かなり頻繁に「なにになには難しい」という言い方をしているのではないのでしょうか。

(17)なぜかという、この言い方は、**二つの点で日本語ないし日本人の国民性にマッチするものだから**です。

(18)一つ目は、自分の意思、特に「拒絶」や「不可能」といったネガティブな内容を含む意思をはっきりした言い方で述べることを嫌う日本人が、それらをあいまいな言い方にぼかすことで他人との対立を避けるために非常に便利な言い方だからです。

(19)・・・これは、私も含めて多くの日本人が思い当たるところだと思います。そしてこれが、英語圏だけでなく他の言語を母語とする人々・企業との間でトラブルの原因になったりしますよね。

(20)実際に聞いた話なのですが、日本企業が外国企業との取引上の交渉で、日本側のスタッフが相手方の提案を受け入れられないときに日本語の感覚でIt is difficult for us to accept your proposal などと言いました。

(21)相手方は(そうか、難しいけど受け入れられなくはないんだ)と思い、その提案に基づいた行動をとってくれるものと期待していました。

(22)しかし、日本側はそのような行動をとるつもりは全くありませんでした。

(23)そして次回2 者が会ったときに、相手方から「この前の話ですがご対処いただけましたか」と切り出されて「え？」ということになったわけです。

(24)つまり、多くの場合にdifficult の持つ意味が日本人の感覚と相手方のそれとでずれているのです。

(25)話を戻して二つ目ですが、こちらはより技術的な、そして多くの日本人英語学習者が気づいていない問題です。

(26)実を言うと私自身、外国語として英語だけをやっているときはこのことに気づいていませんでした。

(27)私は5 年前にスペイン語・ポルトガル語を始めたのをきっかけに10 ヶ国語以上の言語を学び、現在では日本語を含めて10 ヶ国語を仕事で使っています。

(28)この多言語習得の過程で、特に私が力を入れてきたのは各国語での作文練習でした。

(29)04年春に始めた楽天のブログ<http://plaza.rakuten.co.jp/tagengomama1970/>で、対訳形式で数ヶ国語で日記を書く試みを続けていますが、これはその一環です。

(30)日本語で書いたことをいろいろな言語で書こうとすると、当然辞書を頻繁に引くことになります。

(31)各国語の辞書を引き、調べる語彙の例文を参考にするうえで必要な技術のひとつが「文の品詞分析能力」です。

(32)つまり、ある文を単語に分解して「これは名詞、これは動詞、これは限定形容詞・・・」などと品詞に分類することができないと、例文を正しく理解して自分の書く文の参考にすることができないのです。

(33)・・・各国語での作文そして同じ内容の日本語との比較を続ける中で気づいたこと、それが「日本語の典型的パターン」についてです。

(34)すなわち、日本語では「名詞+助詞+形容詞」のパターンで文を作ることがとても多いのです。

(35)そう、「何々は難しい」という言い方は、まさにそのパターンにあてはまるのです。

(36)・・・このことと、特にネガティブなものごとに対してあいまいな言い方を好む日本人の国民性がかけあわさって、日本人は「何々は難しい」という表現を好んで使っているのではないかと思います。

(37)従って、タイトルの「英語を話すのは難しい」という言い方はいわば日本人の国民性を反映した日本語的表現だといえます。

(38)そして、多くの日本語ネイティブが学校英語で「難しいイコールbe difficult」と習っているため、この日本語表現をそのまま英語でEnglish is difficult to speak あるいはIt is difficult for me to speak English などという人が多いように思います。

(39)・・・ここまで読むとあなたは「じゃあ、日本語でそういたい場合に英語らしい英語ではなんと言えればいいの？」と思われるすよね。

(40)そこで次に、「英語を話すのは難しい」を初めに、日本語では「何々は難しい」ということで済む場合に英語ではどのように表現すればよいのか提案させていただきます。



## 2. 「私は英語を話すことにまだ自信を獲得していない」～difficultの言い換え例～

(41)まず、「英語を話すのは難しい」。これを英語で表現する上で、まずあなたにぜひ心得て頂きたいことをお話します。

(42)それは、英文の基本スタイルについてです。言い換えれば、あなたが「英語で考える」ことができるようになるための英文パターンについてです。

(43)もちろん英語にも、「何々は難しい」をそのまま英語にしたような文型すなわちbe動詞と形容詞を使った、学校英語でいうところのSVC 文型もあります。

(44)しかし、英語の場合はまず「人」を主語にして、直後に一般動詞そして次に目的語をもってくる、いわゆるSVO 文型が基本だと言えます。

(45)そこで、「英語を話すのは難しい」をこのパターンの英文で表現できるか考えてみましょう。

(46)ひとくちに「話すのは難しい」といっても、その人が置かれている英語学習環境はさまざまですよね。

(47)なので、「大学受験の受験英語はものすごく勉強したけど。」「英会話学校に行っているけど;」「ラジオの英会話講座を毎日聞いてリピート練習もやっているけど;」など、具体的な話者の経験や状況に即した言い方を考えてみましょう。

(48) 次のA からE までの日本語と英語対訳を対照して下さい:

A.「英会話学校ずっと行っているんだけど、まだ話すのが難しくて・・・。」

(49) B.「ラジオの英会話講座をずっと聴いていて、リピート練習もやっています。聞き取りはほとんどできるようになりましたが、実際に習ったことを使って話すとなると難しくて・・・。」

(50) C.「大学受験のとき、英語はすごく一生懸命やっていて、予備校の模試の成績も英語はトップレベルだったんです。難しい単語とか熟語とかもたくさん覚えたし、難解な文章の読解問題も得意でした。大学に入ってから留学生の人と知り合ったとき、質問されたことに答えようとしたけど全然英語で答えられなかったんです。英会話の授業でもたどたどしくしかしゃべれないし・・・。こんなに、話すのが難しいなんて;」

(51) いかがですか。このように、何とかイズdifficult のパターンによらずに表現することができますよね。

(52) このほか、日本人がとかく「何々は難しい」といいがちな例を検討してみましょう:

D.「(上司との会話で)・・・それを1週間以内に終わらせることは難しいと思うのですが・・・。」

(53) E.「(高校生が友達と話していて)XX大学の法学部に入りたいんだけど、進路指導のY先生が今の俺の模試の偏差値では難しいっていうんだよな。」

(54) これらの英文のように、日本語でなら「何々は難しい」と言いたいときに、英語ではあえてbe difficult を使わず、まず人+動詞+目的語のパターンで表現できないか考え、どうしても思いつかないときにやむをえずdifficult を使うという姿勢でいたほうがよいと思います。

網野智世子の**秘伝**～英語が奇跡的に上達したある1つの秘密を公開します～

(55)こう聞くとあなたは「どうすればそういう英語らしいパターンの表現を思いつくようになるの？」  
と思うのではないのでしょうか。

(56)そこで次に、英語的発想をするためのキーポイントについてお話します

### 3. 「ことば」の世界を開く鍵

(57)さて、では、どうすれば英語らしい表現を思いつくようになるでしょうか？

(58)この質問に対しては、英語の上級者といわれる人たちは皆、次のように答えると思います：  
「できるだけ多くの生きた英語に接して、英語らしい表現を頭にしみこませること」。

(59)・・・これは私もそのとおりだと思います。また、私自身そのようにして英語の実力をつけてきました。

(60)しかしそれでは私自身があなたの疑問にお答えしたことにはなりませんよね^^;

(61)私自身は、仕事で使えるレベルの英語力を身につけてから、さらに10以上の言語を身につけようと試行錯誤する中で、あらためてわかったことがありました。

(62)それは、ひとことで言えば、自分が使える「動詞の語彙を増やすこと」こそが、英語そしてあらゆる言語を身につける鍵だということでした。

(63)英語について言えば、difficult の言い換え表現のところでお話した「人＋動詞＋目的語」のパターンを念頭に、「動詞」をできるだけ多く身につけることなのです。

(64)そのことを頭において「生きた英語にたくさん接する」努力を続けていけば、英語的発想、英語らしい表現方法がどんどん身についていくのです。

(65)私自身にも、このことを悟ってから面白い変化が起こりました。

(66)日頃英字新聞を読んだり英語ニュースを聴いたりしているとき、前者では記事の英文の中の動詞が「浮き上がって見え」、後者では動詞だけが「より大きな音に聞こえる」ようになったのです。

(67)それにより、読解や聴解のスピードが上がりました。つまり、英文そして英語音声を「より速く」理解できるようになったのです。

(68)さらに、これは英語以外の言語の実力アップにも役立っています。

(69)私が初めてイタリア語の翻訳(技術文書の和訳でした)を引き受けたとき、文の中の動詞を探し当てて色づけをしていくと、みるみる文が理解できて翻訳作業が進んだのでした。

(70)ちなみにこのときは似た内容のフランス語技術文書の和訳もあったのですが、フランス語のほうでも同じことが起こりました。

(71)このような経験からも、「動詞を中心に勉強することこそが語学上達の近道だ」と確信するようになったわけです。

(72)と同時に、日本語ネイティブである自分、そして多くの日本人学習者にとって、「動詞」が英語そして多くの言語を身につける上で壁となっていることに気づいたのです。

(73)端的に言えば、日本人は動詞に弱いのです。

(74)しかし、あなたはこれを聞いてちょっとがっかりしたかもしれません。「英語やイタリア語やフランス語では動詞が大事だって、それはそうでしょう。こういうヨーロッパの言葉では、文の中で主語のすぐ後に動詞がくるからでしょう？ けど日本語では動詞はたいてい文の最後に来るよね。そして日本人が動詞に弱いっていうのはそういう語順とか文構造のギャップのせいじゃないの？」

(75)このご意見はもっともです。そして、世界の多くの言語ではこれに似た語順・文構造が基本になっています。これに対して日本語のそれは確かに、かなり違っています。

(76)ですが、私にいわせればそれは、ことばの中の「動詞」の大切さの根拠のひとつ、あるいは表面的な根拠でしかありません。

(77)動詞がことばの中で重要な役割を果たしている根拠は、英語とか何語とかいったひとつひとつの言語の枠を超えた、いわば人間の言葉にすべてあてはまる**普遍の真理**にもとづくものなのです。

(78)・・・それはあくまでも私のオリジナルな仮説なのですが、私はそのことを、日本語も含めておよそ「ことば」を学ぼうとする人たち全てに知って頂きたいと思っています。

(79)このたび、私は多言語運用の過程であらためて悟った「英語上達法」をバイリンガルテキストにまとめました。

(80)また、このテキストのすべてを米・英・カナダ・豪州国籍のプロの英語ナレーターと日本人ナレーターとの日英対訳方式によるCD に収め、テキストとセットでご提供することにしました。

(81)このテキストでは、上の「動詞の大切さ」の背景を探る仮説を展開するとともに、御紹介した difficult の例のような「日本人英語の弱点」を徹底検証しています。

(82)さらに、英語上達の上で重要ながら日本人が使いこなせていない動詞を20ほど選び、あくまでも「自分でそれを使う」ことを念頭に置いた用法の解説を行っています。

(83)また、最後の章では英語上級者となる上で必ず勉強してほしい「英字新聞」の記事を徹底的に活用し、その中で英語力アップのために重要な動詞を身につけられるような方法を提案しています。

(84)あなたが、高いレベルの英語力を身につけたいと思いながら何らかの「壁」を感じているとしたら、あるいは、英語で上級レベルの実力をつけたい一方で他の言語にも関心があり、言語を超えて共通する「語学習得の秘訣」を知りたいと思っていらっしゃるとしたら、

(85)ぜひぜひ、私の教材「TOEIC980 点取得！30 歳からできたラクラク英語マスター法～10ヶ国語マルチリンガルが英語上達の秘訣を余さず告白～」をご利用下さい！（詳しくは、ビデオレター付・無料レポート請求ページ<http://www.aminochiyoko.com/>をご覧ください）

網野智世子の秘伝～英語が奇跡的に上達したある1つの秘密を公開します～

(86)なお、この無料レポートの英語対訳でも一般動詞\*をスカイブルーで示していますので、動詞に注意しつつ日本語と対照しながらセンテンスごとあなたの英語に取り入れてください。\*受動態、動名詞及び分詞形を含む

(87)最後にひとこと。もしあなたが、「とにかく今週、今月の間に英語力を上げなければ！」という必要に迫られているとしましたら、次のような勉強に少し時間を使うことをおすすめします：

(88)お手持ちの英検やTOEICの参考書や問題集の例文・問題文の中のSVO系構文を拾い出し、日本語と対照させながら、どのような場合にどういう動詞が使われているかを意識しつつ、その文ごと覚えるようにして下さい。

(89)このレポートがあなたの英語上達のために少しでもお役に立てれば幸いです。m(\_\_)m



**【英文のみ】 英文だけでわかればあなたの点数はもう自然にアップしています・・・**

### **English is difficult to speak?**

In this report I would **like** to **offer** you a key that **will enable** you to **think** and **express** yourself in authentic English. This key **features** a typical pattern **followed** by English learners of Japanese, **represented** by “*something is difficult.*”

For starters, **suppose** that you **have** not yet **gained** confidence in spoken or written English. You may **have**, at least once, **uttered** statements such as:

“*English is difficult to speak*”, in an attempt to **communicate** the idea of *Eigo wo hanasu nowa muzukashii desu* in Japanese.

A similar statement would be, “*It is difficult for me to speak English.*”

The thought may **cross** your mind that such a statement **constitutes** incorrect English. However, let me **assure** you that this doubt **is unjustified**; you **are** not “**making** a mistake” in grammar or usage.

I also **admit** that you can somehow **make** English-speaking people **understand** what you **intend** to **say**.

However, if you always **use** a construction like “something is difficult” when you **wish** to **express** the English equivalent of “*Naninani (surukoto) wa muzukashii*”, I am afraid that you are unlikely to **make** significant progress in English.

Now, I **guess** you **want** to **argue** this by **saying**, “How about **rewording** it as ‘hard’ or ‘tough’ if you **recommend** not to **use** the word ‘difficult’ for *muzukashii*?”

You can certainly **convey** the same meaning by merely **replacing** it with other words like these.

However, such a change will not **lead** to a significant difference.

Do you **understand** why? This is something I **want** you to **realize**.

I **hope** you **have considered** whether native speakers of English **use** the construction “English is difficult (to **speak**)” often.

I **suppose** most of them do not.

This construction is merely a literal translation of *Eigo (wo hanasuno) wa muzukashii* into English.

I now **request** you to **spare** a little time to **review** your everyday usage of Japanese.

I **will provide** examples in authentic English later, I **suppose** you **use** the construction “*Naninani wa muzukashii*” quite frequently.

This is because this manner of **expressing** an idea is in **keeping** with the Japanese language or the national characteristics of the Japanese in two aspects.

First, most Japanese who **abhor** to **express** their own intention distinctively, particularly when it **contains** the negative idea of “refusal” or “impossibility,” **find** it very convenient to **speak** in this manner to **equivocate** the expression and **avoid** conflict against others.

I **believe** that many Japanese, **including** myself, **use** such expressions when **faced** with a similar situation. This manner of **expressing** ideas sometimes **leads** to trouble with individuals or corporations in English-speaking countries or other non-native speakers of Japanese.

Let me **provide** a real example. A businessman in a Japanese company, in a negotiation with a foreign business counterpart, **found** it impossible for his company to **accept** the other party’s proposal. His statement in English, “It is difficult for us to **accept** your proposal,” was merely a little translation of this idea in Japanese.

The counterpart **interpreted** thus: “They somehow **accept** our proposal, but **will find** it difficult to **implement**.” This **led** to the expectation that the Japanese side would **take** action **based** on the proposal.

However, the Japanese **had** absolutely no intention of **doing** what was actually **expected** of them.

The next time they **met**, the counterpart **began** the discussion by **asking** for a confirmation on whether the Japanese side **had begun** work on the proposal **presented** at the previous meeting.

...As you can **imagine**, the Japanese **failed** to **understand** what the counterpart **meant**.

This example **represents** the gap in the interpretation of the word “difficult”, between the Japanese and people from different cultural backgrounds.

Secondly, the Japanese tendency to **use** the phrase “be difficult” too frequently **has** more of a technical basis, which most English learners of Japanese do not **realize**.

To be honest, I too **failed** to **realize** this when English was the only foreign language I **was learning**.

I **began** to **study** Spanish and Portuguese five years ago. This **stimulated** my appetite for **learning** as many as a dozen languages,

When **learning** several different languages simultaneously, I **place** a high priority on written practice in those languages.

Let me **give** you an example of output-oriented language learning: I **have been keeping** a multilingual diary in a parallel translation style on the abovementioned blog since spring 2004.

If you **attempt** to **provide** multilingual equivalents of your statements in Japanese, you **will need** to **consult** dictionaries once in a while.

And you **will acquire** the skill of **analyzing** sentences into parts of speech, which is necessary to **incorporate** into your vocabulary the sample sentences in the language you **are learning**.

In other words, you cannot wholly **understand** the sample sentences and **incorporate** them into your own writing unless you are able to **categorize** a sentence into parts of speech, **separating** each component as a “noun, verb, definitive adjective...” etc.

I **kept** practice on it, **comparing** equivalents in each language with the original Japanese and I **realized** there is a typical sentence pattern in our native language.

That is, we are very likely to **create** sentences in the “noun – postpositional particle – adjective” pattern.

Now, you may be aware that the Japanese *Naninani wa muzukashii* **does correspond** to this pattern.

This, together with our national preference for equivocal expressions, particularly when **expressing** negative ideas, **makes** us **inclined** to **use** the *Naninani wa muzukashii* pattern.

Thus the “*Eigo wo hanasunowa muzukashii*” manner of expression **follows** the typical Japanese sentence pattern and **reflects**, in my opinion, the national predisposition of the Japanese.

Since many native speakers of Japanese **were taught** in school that *muzukashii* is equivalent to “be difficult,” we are likely to literally **translate** it into English as “*English is difficult to speak*” or “*It is difficult for me to speak English.*”

You may **react** to this by **saying**, “Then how can I **express** this in authentic English when I **think** it in Japanese?”

In the next segment, I would **like** to **present** my idea on how to **express** in English the Japanese *Naninani wa muzukashii*, which **occurs** naturally to us.

**“I have not gained confidence in speaking English”:  
paraphrasing examples of “be difficult”**

Let me **begin** by **telling** you what must **be borne** in mind when you **express** the idea of *Eigo wo hanasu nowa muzukashii*.

It **pertains** to the “standard style” of English sentences.

In other words, it **pertains** to the English sentence pattern that **enables** you to **think** in English.

Of course, English sentence patterns **involve** that *Naninani wa muzukashii* **be** merely **translated** into English; in other words, they **involve** the transformation of the “S-V-C sentence pattern,” which we **learned** in school, into “be-verbs” and adjectives.

However, I **suppose** that the standard English sentence pattern is what we **refer** to as the “S-V-O” pattern; this pattern **begins** with a subject, which **is followed** by a regular verb and an object.

Now, let us **try to express** “*Eigo wo hanasu nowa muzukashii*” in English by **using** this pattern.

The phrase *hanasu nowa muzukashii* **applies** to various situations **depending** on the speaker’s English learning environment.

Thus, let me **provide** examples by **assuming** the experiences or conditions of a speaker, (1) who **has prepared** intensively for a university entrance exam, (2) who **takes** communicative English lessons at a language institute, (3) who **listens** to English conversation programs on the radio everyday and **practices** repeatedly, etc.

**Compare** the Japanese text with the English equivalents in A to E:

A. “I **have been taking** communicative English lessons at a language institute for a long time. However, I **have still not gained confidence in speaking English.**”

B. “I **have been listening** to an English conversation program on the radio for a long time and **practice** several times. I am now able to wholly **comprehend** the English contents; however, I **am still unable to put them to adequately use in actual communication.**”

C. “When I **was preparing** for my university entrance exams, I **studied** English intensively and **maintained** top standings in English at the prep school’s simulation exams. I **learned** numerous exoteric words and idioms and was good at **reading** comprehensions on complicated passages.

However, after I **entered** university and became **acquainted** with a foreign student, I **found** myself unable to **answer** his questions although I **tried** my best to do so. Further, I often **falter** when I **speak** in English conversation classes. I **had not imagined that I would have so much trouble speaking English.**

I **hope** I **have convinced** you that we can **communicate** instead of **following** “something is difficult” pattern.



Besides, let us **consider** further the situations in which the Japanese are likely to **use** the expressions *Naninani wa muzukashii*:

D. (In a conversation with a junior employee of the company, where the latter **reacts** to his superior's request) **"I'm afraid I cannot get it done within a week."**

E. (A high school student **conversing** with his friend). I **want** to **enter** the faculty of law at XX University, but **according** Mr. Y, our academic counseling teacher **my simulation exam record shows that I am unsuitable**.

Like the abovementioned examples, I **recommend** you to **try** to **express** *"Naninani wa muzukashii"* in Japanese by **using** the "person-verb-object" pattern instead of "be difficult." If you are unable to **think** of any other ideas, you could finally **settle** for this one.

I **guess** you **want** to **ask** me how you should **study** to be able to **think** up authentic English expressions.

Then let me **provide** you with a key that **enables** you to **do** this.

## A key that opens the door to the world of languages

Well, how can we **acquire** a sufficient command over English to **communicate** an idea in authentic English?

I **suppose** every individual who **is regarded** as a master of English **has** the following advice: “**Expose** yourself to as much authentic English as possible and **drill** it into your brain.”

I do not **wish** to **deny** it; I too **have gained** command over English in this manner.

However, I **realize** that this cannot be MY answer to your question.

I **have formed** my own ideas on this, which **are based** on my realizations during the course of **learning** more than 10 languages after I **acquired** professional command over English; these realizations **were derived** from my trial-and-error attempts.

In short, **the key to acquire English or any other languages is to actively strive to build rich vocabulary of verbs.**

And when it **comes** to English, you should **master** as many verbs as possible, **adhering** to the “standard” pattern of “person-verb-object,” which I **mentioned** when I **provided** example sentences **containing** the word “difficult.”

With this pattern in mind, **keep** up your efforts at **exposing** yourself to as much authentic English as possible and you **will** surely **assume** way of **thinking** or **expressing** in English.

After I **realized** this, some interesting events **occurred** to me as well.

When **reading** an English-language newspaper or **listening** to news programs in English, verbs “**popped** out” in the former case while they “**were heard** louder” in the latter.

This **expedited** my comprehension when I **read** in or **listened** to English. That is, I was able to **comprehend** English passages or narrations “faster.”

Further, I **found** that it **served** to **improve** my skills in languages besides English.

When I first **obtained** an Italian-Japanese translation job on a technical document, I **searched** for verbs in sentences and **colored** them. This was of tremendous help in **reading** a passage and then **translating** it.

While **working** on this job, I **received** another translation job on a similar document in French, and I **underwent** the same experience while **translating** the French passages into Japanese.

This experience **strengthened** my conviction that the shortcut to **gain** mastery over a language is to **focus** on verbs.

At the same time, I **realized** that verbs to the contrary are an obstacle to me, a native speaker of Japanese, as well as many English learners here in Japan.

### Frankly, the Japanese are poor at verbs

But you **are** not **satisfied**, I **guess**, with this answer, and **assume** the premise of my idea to be as follows: “It is quite natural that verbs **play** quite an important role in English, Italian, or French, as you **have mentioned**. This is because in these European languages, the verb immediately **follows** the subject in a sentence. However, in Japanese, it usually **comes** at the end of a sentence. Your supposition that the Japanese are poor at verbs **is based** on this gap, isn’t it?”

Your observation is correct; many of the world’s languages **have** similar standards for word order or sentence structure, and these are certainly very different from those in Japanese.

However, in my opinion, these points **form** only a part of the premise, or even a superficial premise, for the importance of verbs in a language.

Verbs in a language **play** a significant role, which **is based on a universal truth that applies to any human language**; it **transcends** the framework of each language, like “English.”

This is merely a hypothesis of my own construction; however, it is my wish that every language learner, **including** that of Japanese, **be acquainted** with this idea.

Recently, I **have created** bilingual document on the method of **acquiring** mastery over English; the document **incorporates** my realizations during the course of **learning** and **using** almost a dozen foreign languages.

Besides, I **plan** to **offer** a set of bilingual CDs that **contains** a narration of the entire text, by professional English-speaking narrators from the US, UK, Canada, and Australia. They also **contain** a narration in Japanese, which **will follow** the style of the Japanese-English equivalents.

In this course text, I **have developed** the entire hypothesis in my search for a premise for the importance of verbs. I **have** also **presented** a thorough examination of the negative characteristics of English as **spoken** by the Japanese, like the example of “difficult” **provided** in this report.

Furthermore, I **have selected** 20 verbs that are of immense use in **acquiring** a very good command over English but **are not handled** well by the Japanese, and **provided** explanations **on their usage in actual communication**.

In the last chapter, I **focus** on English-language newspapers, a material that in my view is compulsory for those who **wish to become** advanced-level English learners. I **have presented** a method that **makes** the utmost use of newspaper articles while **learning** important verbs to dramatically **improve** command over English.

If you **wish to gain** a very good command over English but **are facing some impediment**, or if you **wish to acquire** this proficiency while **being interested in other languages** and **desire to know** the secret to **learn** languages faster,

I would **like** to **offer** you the course material **titled** “**The entire secret to mastery over English, disclosed by a translator with command over 10 languages.**” For more information, please **visit** the abovementioned URL.

At this point, let me **remind** you that this report **provides** English equivalents for the entire text, with regular verbs\* **highlighted** in sky-blue. I **hope** that you **will pay** attention to these verbs, **comparing** the equivalents with the original Japanese sentences, and **incorporate** them into your everyday English. \*Includes passive form, gerund or participle

網野智世子の秘伝～英語が奇跡的に上達したある1つの秘密を公開します～

Finally, let me **offer** you a small tip on **enhancing** your English speedily. If you **are urged** to **advance** your English skill level within such a short period as a week or a month, **do spare** some time to **study** the language in the following way:

**Pick** as many sentences as possible from the “standard” pattern in the sample or stimuli sentences of preparation guidebooks or published simulation tests for *Eiken* or TOEIC®. **Memorize** entire sentences, **paying** attention to the choice of verb in a certain situation, and **comparing** each sentence with its Japanese translations, if available.

I **will be** extremely **gratified** if you **find** this report of some use in **improving** your English.

【ラストメッセージ☆】  
ご苦勞様・・・これ本当に最後です。  
動詞を中心に勉強するクセはつきましたか？  
最後まで読んでくれてありがとう☆  
感謝しています。